別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｿｳｶﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　創価大学	
フリガナ 大学の名称	ｿｳｶﾀﾞｲｶﾞｸ 創価大学　（　Soka University　）	
大学本部の位置	東京都八王子市丹木町一丁目236番地	
大学の目的	本学は、創立者池田大作先生の建学の精神に基づき、学校教育法により、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、全人的な人間形成をはかるとともに、文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。	
新設学部等の目的	人間が人間として、その尊厳性を保ち、人間らしく生きていくために必要とされる「ヒューマンケア」に関わる知識・スキルを修得した看護師の育成を目的とする。また「看護師」としての専門性に加え、幅広い教養を身につけ、変化し続ける社会の中で、継起する新たな課題・ニーズの解決に、自身の「知」を動員して挑みゆく人材の育成を目指していく。そのために、総合大学としての多彩な教育リソースを活用した、教養教育の基礎の上に、「看護学」に関わる専門教育を施し、掲げる教育目標を達成しようとするものである。	

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	備考
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	看護学部 [Faculty of Nursing] 看護学科 [Department of Nursing]	4	80	－	320	学士(看護学)	平成25年4月 第1年次	東京都八王子市丹木町一丁目236番地	
	計		80	－	320				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	・平成25年4月　入学定員変更予定 法学部法律学科〔定員減〕（△50）、文学部人間学科〔定員減〕（△20）、教育学部教育学科〔定員減〕（△20）、工学部情報システム工学科〔定員減〕（△10）、工学部生命情報工学科〔定員減〕（△20）	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	看護学部　看護学科	85科目	22科目	11科目	118科目	125　単位	

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
新設分	看護学部　看護学科		6 (　4　)	9 (　7　)	6 (　5　)	6 (　2　)	27 (　18　)	8 (　4　)	24 (　9　)
	計		6 (　4　)	9 (　7　)	6 (　5　)	6 (　2　)	27 (　18　)	8 (　4　)	24 (　9　)
既設分	経済学部　経済学科		17 (17)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	10 (10)
	法学部　法律学科		17 (17)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	13 (13)
	文学部　人間学科		46 (46)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	59 (59)	0 (0)	32 (32)
	経営学部　経営学科		12 (12)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	15 (15)
	教育学部　教育学科		8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	24 (24)
	児童教育学科		8 (8)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	18 (18)
	工学部　情報システム工学科		9 (9)	6 (6)	1 (1)	4 (4)	20 (20)	0 (0)	2 (2)
	生命情報工学科		11 (11)	3 (3)	1 (1)	7 (7)	22 (22)	0 (0)	1 (1)
	環境共生工学科		9 (9)	4 (4)	1 (1)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	6 (6)
	［通信教育部］								
	経済学部		3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	法学部		3 (3)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
	教育学部		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	学士課程教育機構		6 (6)	7 (7)	18 (18)	7 (7)	38 (38)	1 (1)	67 (67)
	日本語・日本文化教育センター		0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	6 (6)
	研究所		3 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	計		153 (　153　)	61 (　61　)	29 (　29　)	23 (　23　)	266 (　266　)	1 (　1　)	194 (　194　)
合計			159 (　157　)	70 (　68　)	35 (　34　)	29 (　25　)	293 (　284　)	9 (　5　)	218 (　203　)

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	170 人 (170)	41 人 (41)	211 人 (211)
	技術職員	5 (5)	0 (0)	5 (5)
	図書館専門職員	6 (6)	4 (4)	10 (10)
	その他の職員	0 (0)	32 (32)	32 (32)
	計	181 (181)	77 (77)	258 (258)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	校舎敷地	262,997.08 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	262,997.08 ㎡
	運動場用地	108,423.08 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	108,423.08 ㎡
	小計	371,420.16 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	371,420.16 ㎡
	その他	371,779.61 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	371,779.61 ㎡
	合計	743,199.77 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	743,199.77 ㎡

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	171,692.39 ㎡ (113,030.22 ㎡)	0 ㎡ 0 ㎡	0 ㎡ 0 ㎡	171,692.39 ㎡ (113,030.22 ㎡)

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	127 室	135 室	12 室	19 室 (補助職員 0人)	6 室 (補助職員 0人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	看護学部	27 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分
	看護学部	6,000〔1,200〕 (5,000〔1,000〕)	75〔30〕 (53〔30〕)	600〔300〕 (600〔300〕)	82 (68)	13,167 (13,167)	98 (98)	図書：1,171,646冊（1,090,646冊） 雑誌：7,434種（7,412種）
	計	6,000〔1,200〕 (5,000〔1,000〕)	75〔30〕 (53〔30〕)	600〔300〕 (600〔300〕)	82 (68)	13,167 (13,167)	98 (98)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	8,763.80 ㎡	1,200 席	1,290,079 冊	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	13,585.06 ㎡	陸上競技場、野球場、ラグビー場、プール等	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
経費の見積り	教員１人当り研究費等		430千円	430千円	430千円	430千円	－	－
	共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	－	－
	図書購入費	37,600千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	－	－
	設備購入費	356,420千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	－	－

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,546千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	－	－

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、寄付金　等

図書購入費には視聴覚教材・電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。

既設大学等の状況

大学の名称	創価大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
経済学部　経済学科	4	250	－	1,000	学士（経済学）	1.10	昭和46年	東京都八王子市丹木町一丁目236番地
法学部　法律学科	4	300	－	1,200	学士（法学）	1.11	昭和46年	
文学部　人間学科	4	390	－	1,560	学士（文学）	1.10	平成19年	
経営学部　経営学科	4	250	－	1,000	学士（経営学）	1.13	昭和51年	
教育学部　教育学科	4	100	－	400	学士（教育学）	1.15	昭和51年	
児童教育学科	4	100	－	400	学士（教育学）	1.15	昭和51年	
工学部　情報ｼｽﾃﾑ工学科	4	80	－	320	学士（工学）	1.12	平成３年	
生命情報工学科	4	70	－	280	学士（工学）	1.08	平成３年	
環境共生工学科	4	60	－	240	学士（工学）	1.06	平成15年	
［通信教育部］								
経済学部	4	2,000	－	8,000	学士（経済学）	0.20	昭和51年	
法学部	4	2,000	－	8,000	学士（法学）	0.07	昭和51年	
教育学部	4	1,000	－	4,000	学士（教育学）	0.95	昭和57年	
［大学院］〈修士課程〉								
文学研究科　国際言語教育専攻	2	15	－	30	修士（教育学）	0.80	平成21年	
［大学院］〈博士前期課程〉								

既設大学等の状況	経済学研究科 経済学専攻	2	15	—	30	修士（経済学）	0.34	昭和50年		
	法学研究科　法律学専攻	2	15	—	30	修士（法学）	0.77	昭和50年		
	文学研究科　英文学専攻	2	10	—	20	修士（英文学）	0.55	昭和50年		
	文学研究科　社会学専攻	2	10	—	20	修士（社会学）	0.90	昭和50年		
	文学研究科　教育学専攻	2	15	—	30	修士（教育学）	0.80	昭和61年		
	文学研究科　人文学専攻	2	8	—	16	修士（人文学）	0.38	平成４年		
	工学研究科　情報ｼｽﾃﾑ工学専攻	2	30	—	60	修士（工学）	1.07	平成７年		
	工学研究科　生命情報工学専攻	2	20	—	40	修士（工学）	0.93	平成７年		
	工学研究科　環境共生工学専攻	2	25	—	50	修士（工学）	0.90	平成19年		
	［大学院］〈博士後期課程〉									
	経済学研究科 経済学専攻	3	5	—	15	博士（経済学）	0.67	昭和52年		
	法学研究科　法律学専攻	3	3	—	9	博士（法学）	0.11	昭和52年		
	文学研究科　英文学専攻	3	5	—	15	博士（英文学）	0.40	昭和52年		
	文学研究科　社会学専攻	3	5	—	15	博士（社会学）	0.13	昭和52年		
	文学研究科　教育学専攻	3	2	—	6	博士（教育学）	0.33	平成元年		
	文学研究科　人文学専攻	3	4	—	12	博士（人文学）	0.42	平成６年		
	工学研究科　情報ｼｽﾃﾑ工学専攻	3	4	—	12	博士（工学）	0.50	平成９年		
	工学研究科　生命情報工学専攻	3	4	—	12	博士（工学）	1.33	平成９年		
	工学研究科　環境共生工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	1.00	平成19年		
	［大学院］〈専門職課程〉									
	法務研究科　法務専攻	3	35	—	105	法務博士（専門職）	1.00	平成16年		
	教職研究科　教職専攻	2	25	—	50	教職修士（専門職）	1.00	平成20年		
	［別科］									
	日本語研修課程	1	35	—	35	—	0.71	昭和51年		
	特別履修課程	1	40	—	40	—	0.20	平成16年		
	大　学　の　名　称	創価女子短期大学								
	学　部　等　の　名　称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	現代ビジネス学科	2	150	—	300	短期大学士（現代ビジネス）	1.18	昭和60年	東京都八王子市丹木町一丁目236番地	
	英語コミュニケーション学科	2	125	—	250	短期大学士（英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）	1.16	昭和60年		
附属施設の概要	名　　称：平和問題研究所 目　　的：平和の達成に関する諸問題の調査・研究 設置年月：昭和51年4月 規 模 等：建物 32.86㎡（文系校舎内の7階） 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地 名　　称：比較文化研究所 目　　的：日本及び世界の文化に関する諸問題の比較研究 設置年月：昭和56年11月 規 模 等：建物 32.86㎡（文系校舎内の8階） 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地 名　　称：生命科学研究所 目　　的：生命並びにそれに関連する諸問題についての科学的な研究 設置年月：昭和63年12月 規 模 等：建物 1,783.00㎡　実験室18室、研究室6室、教室1室、自習室2室、暗室2室、測定室2室、洗浄室1室、遠心機室1室、培養室1室、分配調合室1室、貯蔵室1室、廃棄物保管室1室、汚染検査室1室 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地 名　　称：国際仏教学高等研究所 目　　的：仏教の思想・哲学の特徴と現代的意義に関する研究 設置年月：平成9年4月 規 模 等：建物 811.90㎡（文系校舎別館の2階）研究室5室、リファレンス室1室、書庫2室 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地										

附属施設の概要	名　　称：法科大学院要件事実教育研究所 目　　的：法科大学院における要件事実教育の充実と発展を図るための調査研究 設置年月：平成16年10月 規 模 等：建物 24.00㎡（本部棟校舎内の12階） 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地 名　　称：創価教育研究所 目　　的：創価教育の思想と実践の研究 設置年月：平成18年4月 規 模 等：建物 1,218.00㎡（文系校舎内の8階） 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	大学科目	人間教育論	1 前・後		2		○								兼4
		現代文明論	1前		2		○								兼1
		大学論	1後		2		○								兼1
		共通基礎演習	1 前・後		2			○			1				兼9
	言語科目	英語AⅠ	1前		2		○								兼2
		英語AⅡ	1後		2		○								兼2
		英語BⅠ	1前		1		○								兼3
		英語BⅡ	1後		1		○								兼3
		英語C	1・2 前・後		1		○								兼2
		English Communication Elementary Ⅰ	1前		1		○								兼3
		English Communication Elementary Ⅱ	1後		1		○								兼3
		Test Preparation Intermediate TOEIC Ⅰ	1・2 前		1		○								兼1
		Test Preparation Intermediate TOEIC Ⅱ	1・2 後		1		○								兼1
		Professional English Intermediate Ⅰ	1・2 前		2		○								兼1
		Professional English Intermediate Ⅱ	1・2 後		2		○								兼1
	健康・体育科目	体育実技	1 前・後		1				○						兼3
		体育講義	1 前・後		2		○								兼4
	人文・芸術・思想科目	音楽	1 前・後		2		○								兼1
		美術	1 前・後		2		○								兼2
		文学	1 前・後		2		○								兼4
		哲学	1 前・後		2		○								兼1
		倫理学	1 前・後		2		○								兼2
		宗教学	1 前・後		2		○								兼4
		歴史	1 前・後		2		○								兼8
		言語論	1 前・後		2		○								兼2
		文章表現法	1前	2			○								兼1
	社会・文化・生活科目	法学概説	1 前・後		2		○								兼1
		日本国憲法	1 前・後		2		○								兼2
		経済学	1 前・後		2		○								兼1
		経営学	1 前・後		2		○								兼3
		社会学	1 前・後		2		○								兼6
		政治学	1 前・後		2		○								兼2
		心理学入門	1 前・後		2		○								兼2
		教養地理学	1 前・後		2		○								兼1

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	自然・数理・情報科目		数理科学	1 前・後		2		○								兼3	
			統計学入門	1 前・後		2		○								兼1	
			物理科学	1 前・後		2		○								兼2	
			コンピュータ・リテラシー	1前	2			○								兼1	
			情報科学	1 前・後		2		○								兼4	
			生命科学	1 前・後		2		○				1				兼5	
			環境科学	1 前・後		2		○								兼3	
			プログラミング	1 前・後		2		○								兼2	
	共通科目小計（42科目）			―	4	72	0	―				1				―	
専門科目	専門基礎分野	人間のからだとこころ	構造機能学Ⅰ	1前	1			○			1					兼1	オムニバス
			構造機能学Ⅱ	1後	1			○			1					兼4	オムニバス
			生化学の基礎	1前		2		○			1						
			病態生理学	1後	2			○			1					兼2	オムニバス
			栄養学	1後	2			○								兼1	
			診断治療学Ⅰ	2前	2			○			1					兼5	オムニバス
			診断治療学Ⅱ	2後	2			○			1					兼10	オムニバス
			薬理学	2前	2			○								兼1	
			心理学	2前	2			○								兼1	
			看護とリハビリテーション	2後	2			○								兼1	※演習
			小計（10科目）	―	16	2	0	―			1					―	
		健康と社会	人間関係とコミュニケーション	1前	1				○		2						オムニバス ※講義
			健康と生活	1前	2			○			2	2		2			オムニバス
			生命倫理	1後	2			○								兼2	オムニバス
			社会保障・社会福祉論	2前	2			○								兼１	
			公衆衛生入門	2後	1			○				2		1			オムニバス
			疫学・保健統計	3前	2			○				1					
			小計（6科目）	―	10	0	0	―			3	3		2		―	
	分野計　（16科目）			―	26	2	0	―			4	3		2		―	
	看護の専門分野Ⅰ	看護の基盤科目	看護学概論	1前	2			○				1					
			生活援助技術Ⅰ	1前	1				○				2		3		※講義
			生活援助技術Ⅱ	1前	1				○				2		3		※講義
			生活援助技術Ⅲ	1後	1				○				2		3		※講義
			生活援助技術Ⅳ	1後	1				○				2		3		※講義
			看護理論	1後	1			○				1					※演習
			フィジカルアセスメント	1後	1				○			1	1		3		※講義
			臨床看護技術Ⅰ	2前	1				○			1	1		3		※講義
			臨床看護技術Ⅱ	2後	1				○			1	1		3		※講義
			看護過程演習	2前	1				○			2	3		3		※講義

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
			基礎看護学実習Ⅰ	1前	1					○		2	5	6	8		集中
			基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					○		3	4	6	8		集中
	分野計 （12科目）			―	14	0	0	―				3	5	6	8	―	
看護の専門分野Ⅱ	成人看護学科目		成人看護学概論	2前	2			○			1						
			成人看護急性期援助論Ⅰ	2後	1			○			1	1					オムニバス
			成人看護急性期援助論Ⅱ	3前	1				○		2	1	1	1	1		オムニバス ※講義
			成人看護慢性期援助論Ⅰ	2後	1			○				1					
			成人看護慢性期援助論Ⅱ	3前	1				○		2	2	1		1		オムニバス ※講義
			成人看護学急性期実習	3前・後	3					○	1	1	1	1		兼1	集中
			成人看護学慢性期実習	3前・後	3					○	1	1		1	1	兼2	集中
			小計 （7科目）	―	12	0	0	―			2	2	1	2	1	―	
	老年看護学科目		老年看護学概論	2前	2			○				1					
			老年看護援助論Ⅰ	2後	1			○				1		1	1		オムニバス ※演習
			老年看護援助論Ⅱ	3前	1				○			1		1	1		オムニバス ※講義
			老年看護学実習	3前・後	4					○		1	1	1	2	兼2	集中
			小計 （4科目）	―	8	0	0	―				1	1	1	2	―	
	小児看護学科目		小児看護学概論	2前	2			○			1		1				オムニバス
			小児看護援助論Ⅰ	2後	1			○			1		1				オムニバス
			小児看護援助論Ⅱ	3前	1				○		1		1		1		オムニバス ※講義
			小児看護学実習	3前・後	2					○	1		1		1		集中
			小計 （4科目）	―	6	0	0	―			1		1		1	―	
	母性看護学科目		母性看護学概論	2後	2			○				1					
			母性看護援助論Ⅰ	3前	1			○				1		2	1		オムニバス ※演習
			母性看護援助論Ⅱ	3後	1				○			1		2	1		オムニバス ※講義
			母性看護学実習	4前	2					○		1		2	1		集中
			小計 （4科目）	―	6	0	0	―				1		2	1	―	
	精神看護学科目		精神看護学概論	2前	2			○			2						※演習
			精神看護援助論	2後	2			○			2						オムニバス ※演習
			精神看護学実習	3前・後	2					○	2					兼1	集中
			小計 （3科目）	―	6	0	0	―			2					―	
	地域在宅看護学科目		地域在宅看護学概論	2後	2			○				2		1			オムニバス
			地域在宅看護援助論Ⅰ	3前	1			○				2		1	1		オムニバス
			地域在宅看護援助論Ⅱ	3後	1				○			2		1	1		集中
			地域在宅看護学実習	4前	2					○		2		1	1		集中
			小計 （4科目）	―	6	0	0	―				2		1	1	―	
	分野計 （26科目）			―	44	0	0	―			5	6	2	5	5	―	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目	看護の専門分野Ⅲ	国際看護科目	国際保健学	2後	2			○				1					
			国際看護学	1後		2		○				2					オムニバス
			国際看護特講a	1後		2		○				1					
			国際看護特講b	1後		2		○				1					
			国際看護特講c	1後		2		○				1					
			国際看護研修	2前		2			○			3			1		集中
			小計（6科目）	－	2	10	0	－				3			1	－	
		看護の統合と発展科目	キャリアプランニング基礎	1前	1			○			6	8	5	4			オムニバス ※演習
			看護管理論	3前	2			○			1		1				※演習
			感染看護論	3前	1			○								兼2	オムニバス
			看護学研究方法論	3後	1			○			3						オムニバス
			災害看護論	4前	1			○								兼1	
			卒業研究演習	4前	1				○		6	9	5	4			
			看護実践統合実習	4後	2					○	5	8	6	6	8		集中
			卒業論文	4後	2				○		6	9	6	4			
			医療連携論	3前		1		○				2					オムニバス
			クリティカルケア論	4前		1		○					1		2		※演習
			がん看護論	4前		1		○			2						オムニバス
			リエゾン精神看護	4前		1		○			1						
			家族看護論	4後		1		○			3	2					オムニバス
			生活習慣病予防と看護	4後		1			○			1		1			オムニバス ※講義
			看護実践と倫理的課題	4後		1			○			3					オムニバス ※講義
			看護専門職論	4後		1			○		2		1				オムニバス ※講義
			小計（16科目）	－	11	8	0	－			6	9	6	6	8	－	
		分野計　（22科目）		－	13	18	0	－			6	9	6	6	8	－	
	専門科目計　（76科目）				97	20	0	－			6	9	6	6	8		
合計（118科目）				－	101	92	0	－			6	9	6	6	8	－	

学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
○卒業要件 本学に４年以上在学し、所定の授業科目について125単位以上修得し、在学期間における通算GPAが２以上であること。 ○履修方法 共通科目から18単位（必修科目４単位、選択必修科目14単位）、専門科目から97単位（必修97単位）、共通科目、専門科目の選択科目及び他学部専門科目から10単位以上を修得し、合計125単位以上を修得すること。	１学年の学期区分	２ 期
	１学期の授業期間	15 週
	１時限の授業時間	90 分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	大学科目	人間教育論	（42　神立孝一） 「創価教育」とは何か、ということをみんなで考えてみよう。これがこの授業の最大のテーマです。考える材料は、「創価教育学」の提唱者であり「創価教育学の父」といわれる牧口常三郎先生の御生涯から始まり、それを受け継いだ戸田城聖先生、そして創立者池田大作先生の思想と実践です。 さらに、現在「創価教育の現場」である創価大学の歴史については、一つひとつ丁寧に見ていきたいと思っています。そして、創立者池田先生の示された教育論を通じて「創価教育」について考えていきたいと思っています。 （43　寺西宏友） 「英知を磨くは何のため　君よそれを忘るるな」「労苦と使命の中にのみ　人生の価値は生まれる」――これは創立者が本学創立に当たり寄贈されたブロンズ像の台座に刻まれた言葉である。また、創立者は本学の基本理念として、「人間教育の最高学府たれ」「新しき大文化建設の揺籃たれ」「人類の平和を守るフォートレスたれ」との三つのモットーを掲げられている。これらの指針に象徴される本学の歴史と理念を知ることは、4年間の学生生活をいっそう実りあるものとする上で、一つの大きな契機となるであろう。本授業では、創立者の著作・講演を通して、創価大学とはどういう大学であり、何を目指しているのかを考えるとともに、受講者との議論も交えつつ大学建設の未来を展望する。 （59　木下薫） 人間教育の目的のひとつは、人間についての深い理解、洞察力を養うことである。「何百年という時間の淘汰作用を経て生き延びてきた古典や名作には読者の内発的精神性を刺激してやまない語り掛けが満ちている」（池田大作著『教育提言』趣意。）学生時代に人類の遺産ともいうべき古典・名誉に触れることは、精神性、創造性に満ちた人間理解の地平を獲得する貴重な機会となる。本講義は学生諸君に古典、名作の読了と人間理解を促す。 （72　桑原ビクター伸一） （英文）This course will investigate the evolution and ideals of Soka （Value-Creating） Education from its inception to its current state of development. We will begin by focusing on the foundation of Soka Education by Tsunesaburo Makiguchi by tracing the historical background of his life and educational ideas. We will then illuminate the transition of Makiguchi's pedagogy to his disciple Josei Toda, follow the subsequent grassroots peace movement of the Soka Gakkai under his leadership, and also pursue what has been referred to by his disciple Daisaku Ikeda as "Toda University". The second half of the course will explore the specific works, accomplishments and goals of Dr. Daisaku Ikeda towards the evolution of Soka Education in a modern global society. Particular attention will be paid to Ikeda's innovative cognitive ideals towards Soka Education based on the fundamental aspects of Makiguchi and Toda's educational theories and applications. （和訳）この授業は、創価教育（価値創造）の理念と、その出発から今日に至るまでの発展の歴史を探求する。創価教育の創始者である牧口常三郎の生涯と教育理念を歴史的に跡づけることから始める。そして、彼の弟子である戸田城聖への牧口教育学の継承、戸田のリーダーシップのもとでの創価学会の草の根レベルの平和運動に光を当てるとともに、彼の弟子である池田大作が「戸田大学」として引き継いだものは何であったかを探求する。本授業の後半部分では、創立者池田大作が、創価教育を現代のグローバル社会で、どのように展開・達成していったかを探求する。とりわけ、池田の牧口・戸田の教育論の発展的な受容に注意を払う。（本授業は、すべて英語によって行われる）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	大学科目	現代文明論	文明間対話を一貫して進めてきた創立者の対談集の中から、トインビー対談『21世紀への対話』を題材として選び、21 世紀の人類が直面する地球的問題群に取り組む方途を探りながら、創立者の思想、本学の建学の理念に対する理解を深めていく。 ・トインビーと創立者の対談の経緯 ・人生と社会 ・政治と世界 ・哲学と宗教	
		大学論	創価大学が誕生してから 30 余年が経過し、今、あらためて、創価大学の存在意義が問われている。それは一つには、21 世紀を迎え、日本の高等教育界がかつてない「大競争時代」に入り、すべての大学が、その存在危機と将来計画策定を真剣に検討せざるをえない事態になったことによる。しかし、より積極的な理由として、アメリカ創価大学の開学に象徴されるように、創価大学そのものが、その発展のフェイズ 2 とも言うべき局面を迎えたことによる。 以上のような問題意識から、本コースでは、創価大学を、 （1）歴史（特に思想史）一般の中にどのように位置づけるか、 （2）ヨーロッパ・アメリカ大学史の継承者としてどのように位置づけるのか、 （3）日本の大学史の中にどのように位置づけるのか、 について考察しつつ、創価大学のアイデンティティを問うてゆく。	
		共通基礎演習	(⑦ 佐々木論) 共通基礎演習は、大学における学びの基礎となる、リーディング、ライティングに加え、クリティカルシンキングを、創立者の著作を教材として身につける授業である。 本授業においては、創立者とローマクラブ会長との2冊の対談集「二十一世紀への警鐘」(ペッチェイ博士との対談)と「見つめ合う西と東」(ホフライトネル博士との対談)を教材に、地球的問題群の解決に求められる思想と英知を学び、あわせて毎年「SGIの日」に発表されている記念提言を読み解く力を身につけることを目指す。上記2冊の対談集で展開される具体的な地球的問題群への解決に向けた「人間観」をトピックとして、ディスカッションを通じてクリティカルシンキング、またレポートの作成を通じてアカデミックライティングという学びの基礎を身につけていく。 （39　有里典三） 本演習では、創立者の文明間の対話、SGI提言、諸大学での講演内容などに学びながら、「憎しみと対立の土壌」をどうすれば「平和と共存の土壌」に変えることができるのか、という我々にとって喫緊の課題を取り上げ、この課題を毎回の受講生のプレゼンテーション、集団討議、全体討議を通して掘り下げる。こうした作業を通じて、池田思想のエッセンスに迫りたいと思う。 まず、文化が人間社会に及ぼしてきた正と負の二面性を振り返りながら、「戦争の文化」が持つ本質的な魔性性と「平和の文化」が備えるべき条件について話し合ってみよう。次に、池田思想を特徴づける仏法を基調とした「人間主義＝中道主義」に焦点をあて、「平和の文化」を創造するための基礎的な生命観と社会理論を明らかにした後、それらを基礎として世界的規模で推進されているSGI運動の根本精神と実践、その意義・特徴について考えてみたい。 （40　杉山由紀男） 本演習では、まず本学草創期における創立者の 3 つの講演をじっくり読み込むことによって、本学の建学の理念の文明史的な射程を理解します。加えて、本学が目指す学生像・教員像としての「創造的人間」、そしてあるべき大学像などについて、徹底的な討論をとおして、自分なりの見解を持ち、「創造的人間」の実践を目指します。 （46　坂本幹雄） ここでは読書の技術について多角的に学んで、読書の楽しさを知っていきましょう。読書の方法については、おそらく一般論は成り立たないでしょう。各自が自分なりに発見的な読書の技術を確立していくほかないでしょう。きっかけとして、まず三木清、立花隆などいくつかの読書論を紹介します。創立者の読書論も参考にしましょう。きっかけとしてまず物語＝想像力の力を信じて、すぐれた文学作品をたくさん読みましょう。創立者の著作も対談集をはじめたくさんありますから読破していきましょう。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	大学科目	共通基礎演習 （つづき）	（47　樋口勝） 牧口価値論を通して、価値基準を身につけることを目標とする。 牧口先生は、哲学界において自明の理とされてきた真善美の価値体系を打破して、利善美の価値体系を主張した。つまり、真理は価値の範疇ではなく、認識の問題であるとして価値内容から排除し、代わって利的価値を価値として承認した。 人間は日常生活において、常に価値判断をしながら生きている。しかし、多くの人は、価値とは何か、あるいは普遍的な価値の基準はあるのかを意識せずに生きている。人生においても、社会においても、価値意識を持つことは実は重要なことなのである。 本演習では、牧口先生の価値論を読みながら、その内容を理解し、各自が物事を認識・評価・判断する際の基準を学んでいきたいと考えている。そして、価値とは何か、どうすれば価値創造でき、幸福になれるのか、また幸福とは何かなどについて一緒に考えていきたい。 （49　小島信泰） 本学名誉博士であった故・デイヴィッド・L・ノートンは、牧口常三郎著『創価教育学体系』の英語版に寄せた論文「牧口教育学説の哲学的評価」で、牧口が指摘した日本社会の病弊や教育制度の弊害は、今日のアメリカや西洋諸国においても共通に見られると述べています。これによるならば、牧口の教育思想をいま私たちが学ぶことは、大変意義があるといえるでしょう。さらにノートンは同論文において、牧口の教育思想の哲学的背景について論じていますが、本演習においては、牧口の生涯を知ることによって、その哲学が形成された過程についても考えていきたいと思います。 （51　中山雅司） 平和をめぐる創立者の対談集を学びあいたいと思います。一つは、パグウォッシュ会議の会長として核廃絶を推進し、ノーベル平和賞を受賞したロートブラット博士との対談であり、もう一つは、地球的問題群にいち早く警鐘を鳴らしたローマクラブのホフライトネル名誉会長との対談です。創立者とこの2人の対談を通して、平和の 21 世紀をいかに築いていけばよいのかについて一緒に考えてみたいと思います。 さらに、2009年9月に発表された創立者の核問題に関する記念提言『戸田第2代会長生誕110周年　記念提言』、コロンビア大学記念講演「『地球市民』教育への一考察」についても学びあいたいと思います。 （67　山田竜作） アメリカ・クレアモント・マッケナ大学における創立者の講演「新しき統合原理を求めて」（1993年1月29日）を講読し、異質な他者との共存を課題とする現代世界に必要な「漸進主義的アプローチ」「ソクラテス的対話」「基軸としての人格」等について学ぶ。日本語のテクストをメインの教材としつつ、可能な範囲で英文テクストと対比させながら読み進めたい。また、同講演の内容理解を深めるため、創立者の他のテクスト（SGI提言、長編詩など）も取り上げたい。 （68　清水強志） 本講義では、まず、創立者とヌール・ヤーマン博士の対談『今日の世界　明日の文明』について学び合いたいと思います。「発刊に寄せて」において創立者は「分断と対立が深まる世界にあって、たがいの差違を超え、人間同士をむすんでいく『対話』は、『心の橋』を架ける作業である。本書がその一助となり、次代を担う青年たちが、壮大な人類をむすぶ文明の橋の大建設にとりくみゆくうえでの示唆となれば、これほどのよろこびはない」と述べられています。本書を通して、「対話」について、さらには、池田先生の思想・実践について一緒に学んでいきましょう。 （83　富岡比呂子） 創立者の平和思想、教育思想を女性識者との対談集を通して学ぶ。教材として、エリース・ボールディングと池田先生の対談『「平和の文化」の　輝く世紀へ！』を使用する。エリース・ボールディング氏は、世界的な経済学者であった夫のケネス・ボールディング博士と共に、平和研究・平和運動を続けてきた女性である。現代の女性に一つの「生き方のモデル」を示す彼女の実践をさまざまな角度からみていきたい。暮らしの中の平和について考え、行動してきた彼女の思想、また創立者との語らいの中で広がる平和・教育についての視点についてじっくりと学んでいきたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	言語科目	英語AⅠ	（英訳）In Eigo A, students develop listening, speaking, reading, and writing skills. They also learn important grammar skills and TOEIC test-taking skills. To help improve their skills, students also do self-study outside of class. With these skills, students can go on to higher-level English courses. Students are expected to be positive about studying English. Students are required to take the TOEIC test provided by the university in December and are expected to achieve a minimum score of 285. （和訳）英語Aでは、リスニング、スピーキング、リーディングならびにライティングのスキル向上を目指す。同時に重要な文法とTOEICテスト受験のためのスキルも学ぶ。学生のスキル向上を助けるために課外の自学自習を求める。これらのスキルによって、学生はより高いレベルの授業を受けることができるようになる。受講学生には、英語学習に積極的であることが求められる。受講学生には、12月に大学によって実施されるTOEICテストを受験し、最低でも285点に到達することが要求される。	
		英語AⅡ	（英訳）In Eigo A, students develop listening, speaking, reading, and writing skills. They also learn important grammar skills and TOEIC test-taking skills. To help improve their skills, students also do self-study outside of class. With these skills, students can go on to higher-level English courses. Students are expected to be positive about studying English. Students are required to take the TOEIC test provided by the university in December and are expected to achieve a minimum score of 285. （和訳）英語Aでは、リスニング、スピーキング、リーディングならびにライティングのスキル向上を目指す。同時に重要な文法とTOEICテスト受験のためのスキルも学ぶ。学生のスキル向上を助けるために課外の自学自習を求める。これらのスキルによって、学生はより高いレベルの授業を受けることができるようになる。受講学生には、英語学習に積極的であることが求められる。受講学生には、12月に大学によって実施されるTOEICテストを受験し、最低でも285点に到達することが要求される。	
		英語BⅠ	（英訳）Eigo B-E TOEIC Preparation Elementary is for students who scored from 285 to 420 on the TOEIC test and want to improve their scores. This course is taught in English. Students learn language and test-taking skills that are needed to do well on the test. At the end of the course, students will have more knowledge about the English language, the TOEIC test format, and time management skills. In the first semester, the course focuses on the listening section of the TOEIC test. In the second semester, it focuses on the reading section. Students are required to take the TOEIC test provided by the university in December and are expected to achieve a minimum score of 420. （和訳）英語B（TOEIC試験対策基礎）は、TOEICテストで285点から420点までのスコアを獲得した学生で、さらに点数を伸ばしたい学生のための授業である。この授業は英語で行われる。学生は、試験で好成績を取るために必要な語学と受験スキルを学ぶ。学生はこの授業を受講することにより、英語およびTOEICテストの形式に関するさらなる知識と、タイムマネージメントスキルを得る。前期の授業では、TOEICテストのリスニングセクションに焦点を当てる。後期の授業では、リーディングのセクションに焦点を当てる。受講学生には、12月に大学によって実施されるTOEICテストを受験し、最低でも420点に到達することが要求される。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	言語科目	英語BⅡ	（英訳）Eigo B-E TOEIC Preparation Elementary is for students who scored from 285 to 420 on the TOEIC test and want to improve their scores. This course is taught in English. Students learn language and test-taking skills that are needed to do well on the test. At the end of the course, students will have more knowledge about the English language, the TOEIC test format, and time management skills. In the first semester, the course focuses on the listening section of the TOEIC test. In the second semester, it focuses on the reading section. Students are required to take the TOEIC test provided by the university in December and are expected to achieve a minimum score of 420. （和訳）英語B（TOEIC試験対策基礎）は、TOEICテストで285点から420点までのスコアを獲得した学生で、さらに点数を伸ばしたい学生のための授業である。この授業は英語で行われる。学生は、試験で好成績を取るために必要な語学と受験スキルを学ぶ。学生はこの授業を受講することにより、英語およびTOEICテストの形式に関するさらなる知識と、タイムマネージメントスキルを得る。前期の授業では、TOEICテストのリスニングセクションに焦点を当てる。後期の授業では、リーディングのセクションに焦点を当てる。受講学生には、12月に大学によって実施されるTOEICテストを受験し、最低でも420点に到達することが要求される。	
		英語C	英文速読力の養成として、教科書付属のCD-ROM教材に徹底して取り組む。それで特許技術を含むソフトウェアによる時間を制限した速読訓練を行い、チャンク（フレーズ）ごとに読む方法を身につける。チャンクは音・文法・意味が渾然となった英語の区切れの単位である。これを主軸にした読み方ができれば、読解力のみならず、聴解力も身につく。また、さらに教科書の内容と関連した記事をネット検索で読み、それを報告して、英語を使う訓練も行う。これをオンライン交流活動として、peer reviewを行い、議論を深めたい。	
		English Communication Elementary Ⅰ	（英訳）This course will center on the development of verbal communication and listening skills. The text chosen is a topic-based conversation course with a focus on conversation strategies. Each carefully scaffolded unit actively engages all students and encourages them to share their own lives, interests, and opinions. Each topic starts out with a simple personalized warm-up activity, vocabulary focus, and practice in asking questions and conversation strategies. The listening activities utilize the vocabulary and strategies presented in the unit, and the speaking activity allows students to apply what they just learned. The last section offers a chance for students to think critically about the topic. The class will focus on active participation and attendance rather than test results. It is essential for students to attend regularly and take an active role in each class. The work will be challenging, but the atmosphere will be relaxed and fun. Students who apply themselves well will undoubtedly see an improvement in their communication skills. （和訳）この授業は、言語コミュニケーションスキルならびにリスニングスキルの向上を中心とする。選択された教材は、カンバーセーションストラテジーに焦点を合わせたトピックベースの会話教材である。それぞれの注意深く組立られたユニットは、学生を積極的に参加させ、彼らの生活、関心や意見の交換を促す。それぞれのトピックは、シンプルな個々のウォーミングアップアクティヴィティ、焦点となる語彙、質問をしたりカンバーセーションストラテジーを実践したりすることから始まる。リスニングアクティヴィティは、ユニットの中で紹介された語彙ならびにストラテジーを使用する。そしてスピーキングでは、学生はユニットの中で学習したことを応用する。最後のセクションでは、学生にトピックについて批判的に思考する機会を与える。 授業は、試験の結果というよりは、積極的な授業参加と出席に重きを置く。休まず出席をし、各授業の中で積極的な役割を果たすことは、最も重要である。学習は大変かもしれないが、授業の雰囲気は楽しくリラックスしたものとする。うまく応用ができるようになった学生は、間違いなくコミュニケーションスキルの上達を確認できるであろう。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	言語科目	English Communication Elementary Ⅱ	（英訳）This course will center on the development of verbal communication and listening skills. The text chosen is a topic-based conversation course with a focus on conversation strategies. Each carefully scaffolded unit actively engages all students and encourages them to share their own lives, interests, and opinions. Each topic starts out with a simple personalized warm-up activity, vocabulary focus, and practice in asking questions and conversation strategies. The listening activities utilize the vocabulary and strategies presented in the unit, and the speaking activity allows students to apply what they just learned. The last section offers a chance for students to think critically about the topic. The class will focus on active participation and attendance rather than test results. It is essential for students to attend regularly and take an active role in each class. The work will be challenging, but the atmosphere will be relaxed and fun. Students who apply themselves well will undoubtedly see an improvement in their communication skills. （和訳）この授業は、言語コミュニケーションスキルならびにリスニングスキルの向上を中心とする。選択された教材は、カンバーセーションストラテジーに焦点を合わせたトピックベースの会話教材である。それぞれの注意深く組立られたユニットは、学生を積極的に参加させ、彼らの生活、関心や意見の交換を促す。それぞれのトピックは、シンプルな個々のウォーミングアップアクティヴィティ、焦点となる語彙、質問をしたりカンバーセーションストラテジーを実践したりすることから始まる。リスニングアクティヴィティは、ユニットの中で紹介された語彙ならびにストラテジーを使用する。そしてスピーキングでは、学生はユニットの中で学習したことを応用する。最後のセクションでは、学生にトピックについて批判的に思考する機会を与える。 　授業は、試験の結果というよりは、積極的な授業参加と出席に重きを置く。休まず出席をし、各授業の中で積極的な役割を果たすことは、最も重要である。学習は大変かもしれないが、授業の雰囲気は楽しくリラックスしたものとする。うまく応用ができるようになった学生は、間違いなくコミュニケーションスキルの上達を確認できるであろう。	
		Test Preparation Intermediate TOEIC Ⅰ	（英訳）TOEIC Preparation Intermediate is for students who scored from 425 to 485 on the TOEIC test and want to improve their scores. Students learn the language and test-taking skills which are necessary for success on the test. By the end of the course, students have more knowledge of the English language, the test format, and the time management skills required. In the first semester, the course focuses on the listening section of the TOEIC test. In the second semester, it focuses on the reading section. （和訳）TOEIC試験対策中級は、TOEICテストで425点から485点までのスコアを獲得した学生で、さらに点数を伸ばしたい学生のための授業である。学生は、テストで成功をおさめるために必要な受験スキルと言語を学ぶ。学生は受講後には、英語ならびにTOEICテストの形式についてより知識を得、タイムマネーメントスキルを身につけることとなる。前期の授業では、TOEICテストのリスニングセクションに焦点を当てる。後期の授業では、リーディングセクションに焦点を当てる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	言語科目	Test Preparation Intermediate TOEIC Ⅱ	（英訳）TOEIC Preparation Intermediate is for students who scored from 425 to 485 on the TOEIC test and want to improve their scores. Students learn the language and test-taking skills which are necessary for success on the test. By the end of the course, students have more knowledge of the English language, the test format, and the time management skills required. In the first semester, the course focuses on the listening section of the TOEIC test. In the second semester, it focuses on the reading section. （和訳）TOEIC試験対策中級は、TOEICテストで425点から485点までのスコアを獲得した学生で、さらに点数を伸ばしたい学生のための授業である。学生は、テストで成功をおさめるために必要な受験スキルと言語を学ぶ。学生は受講後には、英語ならびにTOEICテストの形式についてより知識を得、タイムマネーメントスキルを身につけることとなる。前期の授業では、TOEICテストのリスニングセクションに焦点を当てる。後期の授業では、リーディングセクションに焦点を当てる。	
		Professional English Intermediate Ⅰ	（英訳）Professional English Intermediate is for students who are interested in exchange programs, graduate schools, vocational programs, and/or multinational corporations. Through current professional case studies, students build career skills and vocabulary commonly used in everyday situations. With a strong foundation in Professional English, students will be able to be active in an international business environment. （和訳）プロフェッショナルイングリッシュ中級は、交換留学プログラム、大学院進学、職業プログラムあるいは多国籍企業等に関心を抱く学生のための授業である。対象となる学生はTOEIC-IP425点以上のスコアを持つ学生で、現代の職業世界を中心としたケーススタディーを通し、キャリア形成に役立つ英語力と、日常的使用の語彙力増強を図る。国際的舞台で仕事で使える英語力を身につけることがこの科目のねらいである。そのために具体的シチュエーションを想定した語彙とコミュニケーション力を養成する。個別のシチュエーションとしては、自分の仕事の説明、情報の処理、社交のマナー、製品のイメージ、一連の経過を語る、将来の展望、日程調整、就職活動、顧客へのアドバイス、価格、補償、サービス、創造性、根拠づけなどである。	
		Professional English Intermediate Ⅱ	（英訳）Professional English Intermediate is for students who are interested in exchange programs, graduate schools, vocational programs, and/or multinational corporations. Through current professional case studies, students build career skills and vocabulary commonly used in everyday situations. With a strong foundation in Professional English, students will be able to be active in an international business environment. （和訳）プロフェッショナルイングリッシュ中級は、交換留学プログラム、大学院進学、職業プログラムあるいは多国籍企業等に関心を抱く学生のための授業である。対象となる学生はTOEIC-IP425点以上のスコアを持つ学生で、現代の職業世界を中心としたケーススタディーを通し、キャリア形成に役立つ英語力と、日常的使用の語彙力増強を図る。国際的舞台で仕事で使える英語力を身につけることがこの科目のねらいである。そのために具体的シチュエーションを想定した語彙とコミュニケーション力を養成する。個別のシチュエーションとしては、自分の仕事の説明、情報の処理、社交のマナー、製品のイメージ、一連の経過を語る、将来の展望、日程調整、就職活動、顧客へのアドバイス、価格、補償、サービス、創造性、根拠づけなどである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	健康・体育科目	体育実技	（26　関川佳人・52　久保田秀明） 【競技名】ソフトボール 　大学における体育実技（ソフトボール）は、基本的には大学生活における学生個々人の身心両面の健康をはかることを重視し、社会的、集団的スポーツとしての要素、要件を有する内容をも併せて再吟味して、自己の内に教養として取り入れてほしい。 授業では基本的な技術を習得しながら試合を中心に展開する。 （52　久保田秀明） 【競技名】バレーボール 　世界的に広く普及しているバレーボール（6人制）を教材にして、自己の心身に関する自覚的認識を高め、合理的な運動技能とコミュニケーション能力、心理的な能力の開発に努める。 　そのために、技術・体力・経験の異なるメンバーによる固定班を構成し、お互いの良さを引き出し合い学び合う協同学習を行う。安全上・学習上の理由から、出席点呼後に授業に参加した者は遅刻扱いとする。また同様に、8割以上の出席を必要とする。3回を超える欠席があった場合は単位を認めない。 　これらの取り組みの中で、評価基準が技術や勝敗に偏重しがちなスポーツ科目の課題を克服し、全員参加型の白熱したバレーボール授業を追求する。 （28　井上アヤ子・26　関川佳人） 【競技名】バドミントン 　バドミントンは生涯運動種目の中でも大変人気の高い種目である。シャトル（羽）という特殊性のある用具から生み出される多様な運動の面白さに一因がある。バトミントンという競技の学習体験を通じて、青年期における運動量の確保と生涯スポーツの基礎作り、所謂、健康の維持増進が目的である。 　更には、実技を体験しながら学部・学年を超えた友好を広げる機会でもある。基本的にはより多くの試合を体験しながら、体力・気力を高め、仲間と共にコミュケーション力も培う。 （52　久保田秀明） 【競技名】テニス 　世界的に広く普及している（硬式）テニスを教材にして、自己の心身に関する自覚的認識を高め、合理的な運動技能とコミュニケーション能力、心理的な能力の開発に努める。また、審判法や技術の変遷など、テニスの文化的背景について考察する機会をもつ。 　そのために、技術・体力・経験の異なるメンバーによる固定班を構成し、お互いの良さを引き出し合い学び合う協同学習を行う。 　その取り組みの中で、技術的評価に偏重しがちな個人種目の課題を克服し、全員参加型の白熱したテニス授業を追求する。 （52　久保田秀明） 【競技名】卓球 　卓球は学校体育では中・高の実技の選択種目として取り上げられている。しかしながら、部活で行った人（上級者）、授業及び趣味程度で行った人（中級者）、全くの初心者とではボールを打つ技術に大きな差があることは言うまでもない。 　本授業では毎回の授業を基本的な練習と技術レベル別の試合を主として行っていく。 初心者は基本的なスキルの習得を目標とする。中級者は一段高いレベルのスキルの習得を目標とする。上級者には初心者及び中級車のサポートをお願いするとともに上級者同士で高いレベルのスキルを磨いていくことを目的とする。 （28　井上アヤ子） 【競技名】フロアスケート 　フロアースケートとはインラインスケートを着用する新しい領域のスポーツである。特に運動能力（滑る感覚）を開発する所に特色がある。スピード感や『滑べる』体感は他の陸上スポーツでは体験することが出来ない運動でもある。 　青年期における健康体力の維持と増進には、十分な運動量がある。生涯スポーツの幅を広げるとともに、表現運動も体験しながら、学部を超えた仲間作りを広げる事を望みます。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	健康・体育科目	体育実技（つづき）	（26　関川佳人） 【競技名】柔道 　大学における体育実技（柔道）には、指導者養成を目指す専門的分野と、実生活に直接関わる教養的分野を主に教授するという2つの意義があります。本授業では教養的分野の観点にたって、具体的には、学習者のニーズに応えることを主眼として柔道授業を展開していく。経験者・初心者、男女は問いません。 （28　井上アヤ子） 【競技名】なぎなた 　日本の伝統的武道である薙刀の幅広い運動文化を理解し習得する機会とする。実技を体験するなかから武道の持つ特色を修得し、社会人として役立つ身体的教養（礼儀作法・体力・技術等）を身につける。 （28　井上アヤ子） 【競技名】ダンス 　世界中のどの地域にも「踊り」は存在し、人々の生活の一部として定着し長い歴史を持つ文化的表象である。その文化はまた多様な様相を繰り広げ、地域や年齢層を越えて広がりを見せているのが今日的状況であろう。それを「ダンス」と括り表現している。本授業では、幅広いダンスの領域から基礎的要素を選び、具体的にはボールルームダンスを軸にリズムと動きを大事に展開する。豊かな生活につながる様な運動として生涯にわたるダンスの基礎づくりを目指した授業にしたい。 （28　井上アヤ子・52　久保田秀明） 【競技名】フィットネス 　近年、生活習慣や人間関係の複合的な変容により、心身の安定を脅かされている人が激増している。こうした時代の要請として本授業では、様々な身体活動・運動の多面的効果、即ち身体・心理・社会的効果をねらいとした総合的な授業（講義・実技）を展開する。ライフスタイルの改善をはじめ、生涯健康を目指す基礎的知識と実技を含めた能力を習得する。特色は講義を踏まえた実技を展開する点にある。	
		体育講義	（26　関川佳人） 　大学における体育講義には、専門的分野あるいは教養的分野を中心として講義する場合があります。本講では教養的分野の観点にたって具体的なスポーツ事象と深く関係しながら、今日のスポーツ行動における諸種の問題点、課題点を取り上げていく。 （28　井上アヤ子） 大学生の身体特性に留意し、身体運動と健康に係わる諸問題を取り上げる。なかでも青年期の身体運動と生活習慣に重点をおく。生涯健康の基礎的運動処方並びに健康への生活習慣の学習をする。 （52　久保田秀明） 　人間の無限の可能性を証明するために、身体運動に関する心と体のメカニズムを、協同学習の実践を通して考察する。 　本講義では、スポーツを他者と競い合う競技の枠内に限定せず、人類が身体運動能力の限界を超えてきた事例を幅広い視点から学びたい。そして、心理学や神経生理学の知識を借りて、受講者各自の能力に関する自覚的認識を深め、各自がより高い目標を達成するための方途を探りたい。 （114　鈴木正敏） （1）体格 （身長・体重） および体脂肪や腹囲等の測定等を行い、その結果を通じた自身のからだに対する認識と理解を深める （2）「健康に関するアンケート」の実施と、その内容に基づく講義（①平均寿命の推移と死因②生体成分と栄養素およびエネルギー代謝③食生活と健康：体脂肪に関する話題④食生活と健康：日本人の食事摂取基準⑤日常生活と運動 （3）「健康度診断検査」 の実施と、それに基づく自身の健康度のパターン・ プロフィール等についての分析と理解を深める	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	人文・芸術・思想科目	音楽	この授業は、誰もが一度は聴いておきたいバロック期、古典派、ロマン主義、印象派、近代・現代までのクラシック音楽の傑作を中心に作曲家の立場に立って講義していきます。名曲を聴きながら、音楽映画の鑑賞を通して、「西洋音楽史」「音楽通論」「和声学」「楽式論」「楽曲分析」「音楽鑑賞法」といった内容をわかりやすく解説し、総合的に講義します。古今の名曲が、多くの作曲家の苦心と情熱のもとに成立し、その音楽の様式が様々に変遷してきたことや、芸術と社会の関わりが、浮き彫りにされてくるでしょう。	
		美術	（25　小山満） 書道は、一本の筆を通して、文字を媒介に自己の感興を表現する芸術活動の一つです。その美的感動を、一人ひとりが表現できるようになるため、理論と実技の基本を学んでいきます。 （116　鷹尾俊一） この授業では、古代から近代十九世紀に至る美術（西洋の美術）の流れをたどりながら、何人かの美術家、作品を取り上げ、また実習も織り交ぜながら、時代と美術について学習をしていきます。	
		文学	（32　水谷誠） 中国文学全般について、お話しする予定です。有名な唐詩から魯迅についての事柄が中心になります。たとえば、日本文学も含めた古典文学の理解では、中国の古典詩理解が必須のものとなっています。また、魯迅についていえば、日本留学が重要な意味をもちます。このようなことについて、ひとつひとつ背景にも触れながら話を進めていきたいと思います。 （38　田中亮平） 文学は哲学や心理学と並んで、人間の内面生活に深く分け入り、思想や心理や、そこから発する行動などを描きます。また形式の上からは、美術や音楽などとならぶ芸術作品でもあります。 ドイツ語圏の文学の世界においても、有名なゲーテを筆頭に、「歓喜の歌」の作者シラー、青春と革命の詩人ハイネなど、古くから我が国でも愛読されてきた詩人が数多くいます。前半はこうした古典的な作家を取り上げます。後半の講義では19世紀末から現代までの、苦闘に満ちた営為の歴史をたどっていきます。時代や地域を超えて、変わる事のない人間の内面の真実を、ドイツ文学を通して探求し味わってください。講義形式で主要な作家や作品を紹介していきます。しかし実際に作品を鑑賞していただくことにも十分時間を割いて進めたいと思います。 （58　山中正樹） 「自身を取り巻く諸問題に対し、（文学作品の読解を通して）積極的に問いかけ、自ら考察していく態度を養う。」 この授業では、近代の＜日本文学＞作品を手がかりに、「私たち」が生きる＜いま＞について、あるいは「私たち」を取り巻く様々な＜矛盾＞や＜課題＞について、また＜生きる＞ことや＜他者＞に関わっていくこと、などについて考察していきたいと思う。 できれば受講生のみなさんのイケンも交えながら、一緒にギロンし考えていければと、思っている。 （122　阿部昇吉） 人類の知的遺産とも言うべきロシア文学を、19 世紀の作品を中心に、代表的な作家の主要作品を取り上げて紹介します。実際に作品を読んでいきながら、文学とは何かを学んでいきます。	
		哲学	西洋の哲学者たちが、哲学の問題として考えたことを、彼ら自身のテキストを通して考え直す。時代の枠を超えた、思想の比較も試み、西洋哲学史における基本事項の理解と、哲学的な思考法の習得を目指す。	
		倫理学	本授業では「入門」という性格を考え、現代社会における「倫理」の問題を、身近なところから紹介し、受講者とともに考えてみたい。できるかぎり、映画やドキュメンタリーなどの映像資料と、哲学や文学などの古典名著とを、組み合わせた構成にしようと思っている。扱うテーマは、「法と正義」、「生と死」、「自由と責任」を予定している。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	人文・芸術・思想科目	宗教学	（49　小島信泰） 戦争と暴力の世紀といわれた20世紀を今世紀も引き継いでしまうのか。そうした事態を回避し、平和への方途を模索しようとした時、仏教思想に根ざした英知とそこから生まれる深き宗教性は、比類ない光明を放ち続けていることに気が付きます。そのなかでも、極まることのない怒りや欲望を生むのも人であるならば、あらゆる差別を超えた仏教の永遠の真理に帰依することができるのも人であると説く法華経は、特に注目されてよいでしょう。 本年度は、日本仏教に大きな影響を及ぼした大乗仏教としての法華経の成立とその思想を概観してから、古代から現代に至る日本仏教の歴史をたどります。そして宗派を超えて受容されたと言える法華経に注目し、前近代の聖徳太子・最澄・日蓮、近代の日蓮主義・新仏教などを基軸にすえて、日本仏教の特色と可能性について考察します。 （101　山崎達也） 宗教のもつ現代的機能を発揮するものとしての宗教間対話を考えるとき、重要なことは宗教の内部に眼を向けることです。それは宗教が成立するその中核に肉薄し、その基本となる思想を浮かび上がらせることを意味します。本講義ではその思想を人間の生と死に連関するものとして捉え、そこから由来するさまざまな問題たとえば存在と認識といった哲学的問題にも視点を当てていきます。 はじめに、20世紀に活躍した哲学者ウィトゲンシュタインの言う《神秘》について考察し、次に《アブラハム一神教》といわれるユダヤ･キリスト･イスラームに共通する一なる神とはそもそも何であるのかという問いを考えていきます。一神教の思想を学ぶことは、ヨーロッパ精神文化の中核に触れることを意味します。本講義ではプラトンやアリストテレスそして新プラトン主義思想的系譜も視野に入れながら、哲学史的観点をもって《神》の神秘に迫っていきます。 さらに、ヨーロッパ精神文化の領域から仏教を捉え直していきます。そのさい、アリストテレスの論理や存在論、中世哲学の認識論とナーガールジュナ（竜樹）の空と縁起の論理との比較を通し、仏教思想の特徴を明らかにしたいと考えています。 （117　小林正博） 基本的には日本仏教史の講義となるが、仏教のもつ卓越した生活に生きる智慧についても、多く紹介していく。仏教は、生きている人のために説かれた教えであることを、再認識できる内容としていきたい。 そして仏教受容から葬送儀礼への変貌、そして現代の民衆仏教の勃興、既成仏教の停滞という1500年の歩みを概観することによって、将来の日本仏教はどうあるべきなのかを考える材料を提供できればと想っている。 （128　平良直） 本講義では、現代世界に生じた宗教に関連する歴史の根本動向を俯瞰しつつ、それらを基礎的な問題場面にもどして省察する。その中で「宗教的なるもの」に固有の根本構造の現代的な脱皮的変容の道筋を共に探ることとしたい。	
		歴史	（71　村上信明・112　和田正彦） 現在、私たちはグローバル化社会の中に生きています。日常の生活の中でも、地球規模の環境問題や世界各地の政治・経済・文化などの影響を少なからず受けています。いわば、私たち人類はただ一つの「地球社会」に生きているともいえます。「世界史入門A・B」では、それぞれ西洋・東洋を中心としながら、今日のような地球社会がどのような過程をへて形成されてきたのかを学んでいきます。 世界史入門がA（西洋）とB（東洋）に分かれているのは、異なる視点から「世界史」を見ることが重要であるからです。歴史上の同じ出来事について、それを見る人の立場が違えば、まったく違う性質のものとして理解されることもしばしばあります。世界史入門A（西洋）では西洋の歴史を中心に、世界史入門B（東洋）では東洋の歴史を中心に学んでいきますが、決して西洋・東洋のことだけを学ぶというものではなく、それぞれの視点からの世界史像を学んでいくものになります。 この「世界史入門B（東洋）」では、西アジア・南アジア・東南アジア・東アジア・中央ユーラシア地域を中心に、19世紀末までの世界史を学んでいきます。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	人文・芸術・思想科目	歴史 （つづき）	（78　西田哲史） 今日、私たちはグローバル化社会のなかに生きている。中東での石油供給事情が、あるいはアメリカでの穀物生産の顛末が、海を隔てた私たちの日常に大きな影響を与えている。現代史研究の課題は、つまるところそうした世界の一体化構造を目の前にして、その生成過程を明らかにすることにある。 最新の研究によれば、現代の国際社会、あるいはグローバリゼーションの原型は、今から100年ほど前に形成されたという。欧米列強によるアジアやアフリカの支配、大国の論理（欧米流の考えや体制の押し付け）、白人を頂点とする民族・人種的支配の体系などを特徴とする、帝国主義的世界体制の成立である。二つの世界大戦も、その後の冷戦も、この世界体制をいかに変革するか、また継承するかをめぐって、武力を伴いつつ厳しい交渉が重ねられた歴史であった。 本講義はその複雑な因果関係を読み解き、現代世界の仕組みと歴史を語れる自分になるための、入門講座である。「現代史とは帝国主義的世界体制の歴史である」という仮説の検証を通して、現代世界を見渡す歴史学的センスを身につけたい。 （118　栗原淑江） 現在、私たちはグローバル化社会の中に生きています。日常の生活の中でも、地球規模の環境問題や世界各地の政治・経済・文化などの影響を少なからず受けています。いわば、私たち人類はただ一つの「地球社会」に生きているともいえます。「世界史入門A・B」では、それぞれ西洋・東洋を中心としながら、今日のような地球社会がどのような過程をへて形成されてきたのかを学んでいきます。 世界史入門がA（西洋）とB（東洋）に分かれているのは、異なる視点から「世界史」を見ることが重要であるからです。歴史上の同じ出来事について、それを見る人の立場が違えば、まったく違う性質のものとして理解されることもしばしばあります。世界史入門A（西洋）では西洋の歴史を中心に、世界史入門B（東洋）では東洋の歴史を中心に学んでいきますが、決して西洋・東洋のことだけを学ぶというものではなく、それぞれの視点からの世界史像を学んでいくものになります。 この「世界史入門A（西洋）」では、ヨーロッパ、南北アメリカ地域を中心に、20世紀末までの世界史を学んでいきます。 （131　満田剛） 現在、私たちはグローバル化社会の中に生きており、普段の生活の中でも、地球規模の環境・経済問題や世界各地の政治・文化等の影響を少なからず受けている。いわば、私たちはただ一つの「地球社会」に生きているのである。 そのような地球人類の歴史がどのように動いてきたのかを、各国史のような形ではなく、時間軸・空間軸を「動かし」ながら、総合的に捉える努力をしていきたいと考えている。また、我々が歴史をどのように記録し、考えてきたかを扱う史学史の簡単な概説も試みたい。 （77　開沼正　117　小林正博　120　小倉裕児） （概要）古代から近現代までの日本の歴史についての講義です。流れとしては高校までに学習した日本史と同様に時代順に扱っていきますが、取り上げるトピックはそれぞれの時代を理解するために必要な事柄に絞ります。一回の講義でひとつのテーマを完結させるという授業形式をとり、できるだけ史料に基づきながら講義を行います。 （オムニバス方式／全15回） （117　小林正博／5回）古代・中世 （77　開沼正／5回）近世 （120　小倉裕児／5回）近・現代	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	人文・芸術・思想科目	言語論	（31　蓮沼昭子） 専門用語を用いずに、言語学の諸分野の基本的な考え方を紹介する。データとしては、主に日本語を用いる。言語学の考え方を平易に紹介している入門書を教科書として用い、その中から身近なテーマを選び、具体的な言語データの観察を通して、言語学の基本概念や分析方法を学ぶ。一方的な講義ではなく、毎回、問題提起を行い、それを皆で考えるという対話的な方法で授業を進める。 （66　日高吉隆） ○日本語教育の歴史を学び、日本語教育・日本語教師のあり方を考える。 ○コースデザインを中心に日本語教育の方法を学ぶ。 ○日本語の特徴を学ぶ。 ○日本語の教え方の基本を学ぶ。	
		文章表現法	本講義では、グループワーク、実習形式を取り入れ、最終的に1、000～1、200字のレポートを書き上げます。講義では配布物やワークシートを活用しながら、次のような力をつけていきます。 まず、大学で求められるクリティカルシンキング／リーディングとは何か、レポートとは何かを学びます。さらにレポートの論理性・構成、レポートにふさわしい文章、引用の仕方など、レポート作成における基本的なスキルを身につけます。 なお、本講義は、大学で求められるレポートを書くことが初めて、もしくは書き方が分からないという学生を対象にしています。レポートの書き方は、専門分野や教員によって「書き方の規定」が変わるため、本講では汎用的なタイプを学びます。	
	社会・文化・生活科目	法学概説	法学とは、大学における重要な教養科目の一つであり、法に関係する学問である。最高学府で学ぶものにとって、学部のいかんを問わず、基礎的な法律的知識は必要である。また、その知識に基づいた法律的なものの考え方もできなければならない。ゆえに、法や国家、権利・義務など法全般に通ずる最低限度の原則や考え方を理解する必要がある。 本講義は、法学を単に法解釈学という狭い意義ではなく教養ある社会人にとって必要な法及び法学の基礎的な知識を学び、法学的思考を養う学問として勉強したい。	
		日本国憲法	（36　藤田尚則） ①日本国憲法が施行されて既に60年を過ぎましたが、人間で言えば還暦の齢を超えたになります。この間、国民主権主義、基本的人権尊重主義、平和主義を基本原理とする憲法は、国民各層の広い支持を受けて、空気のような存在になっています。しかし、反面、1990年代に始まる世界規模での政治的、経済的、軍事的過渡期を向かえ、憲法自身がこれらの大きな波に飲み込まれようとし、現に憲法改正問題が政治日程に上がってきております。 ②本講義では、われわれの社会的、政治的、精神的、文化的、はたまた宗教的日常生活に如何に憲法が深く関わっているかを日常の生活の中で接するさまざまな事象を取り上げながら、諸君と一緒に憲法の全体像を明らかにしていきたいと思考するものです。 （108　高久泰文） 法学部の学生に対する憲法の授業ではなく、教職課程の学生に対する憲法の授業であることを考慮して、公務員試験及び各種の資格試験の「憲法の試験問題」に対応するという趣旨ではなく、学生が憲法に対する関心を惹起するための契機を与え、学生が卒業後に、社会人として、また日本国の国民として、常に憲法に関心を持ち続けることのできるような授業を目指す。	
		経済学	この講義では、マクロ経済学が扱う経済理論の基礎を学習します。マクロ経済学とは、一国経済を全体的・集計的に捉え、経済の構造や働きを捉えるための理論体系をいいます。このマクロ経済理論では、経済全体の仕組みやその機能の分析を通じて「経済の安定化の問題」を扱います。より具体的には、国民所得の概念、有効需要と乗数メカニズム、貨幣の機能、マクロ経済政策、国際マクロ経済学の基礎などを学び、現実に起きている経済問題への対応などを考える手がかりとします。講義では、テキストに沿って、経済をマクロから捉える、有効需要と乗数メカニズム、貨幣の機能、マクロ経済政策、財政政策のマクロ経済分析、国際経済学について学びます。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	社会・文化・生活科目	経営学	（41　國島弘行） 今日、ベンチャー企業の社会的役割の重要性が叫ばれています。それは、経営革新能力を持つ、主として中小のビジネスであるベンチャー企業によって、従来の大企業中心の経済や社会のあり方を変えることや、従来の企業・行政にはない事業の内容や仕組みが創造されることが期待されているからです。従って、女性・若者・外国人などの発想や行動に大きな期待が集まるのです。 この授業では、新しいターゲット・サービス・手法を開発し、事業化するベンチャー起業家を招き、講義をしていただきます。また、事業や会社を起こすためのビジネス・プランの作成も、体験してもらいます。 （111　福室満哉） 企業を取り巻く環境は、常に激変の連続の中にあり、かつ不安定で波乱含みの状況にあります。企業経営の基本は、「変化する環境に最適化」することです。その為に企業命題ともいえる「経営品質」を高め、他と違った際立つ＝経営を志向し強く良い企業としての企業価値を磨き続けることが要諦であります。 本講座においては、企業の創生や再生の実体験をもとに、高い経営品質と独自の経営スタイルを有した顧客創造型企業が、尊敬される企業文化を創り、その文化は、持続的に卓越した業績と良い人材を育てていくという展開で、真の顧客価値や現場重視の経営、そして、それを成し得る「人間大事の経営」について学びます。 （130　B.カンデル） 近年、企業を取り巻く環境は激しく変化しつつあります。本講義では、企業とは何かを市場と社会との関連性について学習します。現代社会は様々なシステムとの関連の動きに影響される。そのため、今後経営学では、「経営」「企業」「組織」などの概念および課題を認識する必要がある。また、近年企業経営にとって重要な課題となってきているCSR、環境問題、経営倫理について学習します。	
		社会学	（29　和田光一） 少子高齢社会の到来で、誰もが安心して住み慣れた家庭や地域で暮らし続けていける方法が求められている。その中心的な学問が社会福祉である。初めて社会福祉を学ぶ学生に対して、社会福祉の定義や理念を解説し、社会福祉の歴史を学んでいく。 社会福祉の体系や社会福祉援助技術の体系を理解し、社会福祉の機関、福祉分野の施設サービス、在宅サービス、専門職などについて学び、社会福祉全般についての基礎を身につける。また、リハビリテーションや地域リハビリテーションについても講義を行う予定である。なお、今年度についても社会福祉を中心とした講義を半数回、リハビリテーション論を半数回おこなう。 （39　有里典三） 社会学のおもしろさの一つは「非自明性の発見」にある。私たちの日々の暮らしの中には「ふしぎ」な社会現象があふれているが、常識にとらわれたものの見方をしていては、そのような社会現象に内在する非自明的な構造を理解することはできない。 本講義の特徴とねらいは、地球環境問題、グローバリゼーションと異文化摩擦、家族、ジェンダー、逸脱現象、少子・高齢化現象、権力現象などの身近な素材を対象として取り上げ、社会学が全体として受け入れ共有してきた「逆説的な思考法」を使って、これらの生活世界に実在する「ふしぎ」な社会現象がどのような常識を超えたメカニズムやプロセスによって生じているかを紹介することにある。 （44　林亮） 本講義は、グローバル化の問題を、創価大学平和学会編『グローバル時代の国際関係学』を中心に論じ、また国民国家中心の在来の国際政治秩序については、現在なおアメリカ外交に多大な影響力を有するアメリカ政治リベラルを代表するハーバード大学ジョセフ・ナイ教授の『国際紛争』を使用して、アメリカが何を考え、どのように行動するかという視点にたってグローバル化しつつある現代国際関係の理解と解明を試みます。 （54　玉井秀樹） 本講義は現在なおアメリカ外交に多大な影響力を有するアメリカ政治リベラルを代表するハーバード大学ジョセフ・ナイ教授のテキストを使用し、アメリカが何を考え、どのように行動するかという視点にたって現代国際関係の理解と解明を試みるものである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	社会・文化・生活科目	社会学 (つづき)	（68　清水強志） 「社会学とはどのような学問ですか？」という質問に、未だにとまどう。社会学を説明することは決して簡単なことではないからである。 しかし、社会学の具体的な説明の難しさと社会学の難しさは正の相関関係にない。むしろ、現実社会のなかで生きる私たちにとっては、身近で親しみのある内容である。換言すれば、非常におもしろい学問といえるだろう。他方、「社会学的な視点」から眺めるためには、訓練が必要となる。 本授業では、社会学の基本的な概念理解を重視する。そして、皆で考える機会も設ける。たとえば、13回目と14回目の授業では、実際に各自予習ノートを用意し、グループの仲間に社会学的な視点から考えた自分なりの考えを紹介する。 本授業においてグループ学習は非常に重要な意味を持つが、その意図したところに関しては、最後の授業時「総括」のなかで伝える。 （123　大黒正伸） 古典から現代にいたるまでの社会学の基本的な理論と思想とを解説する。本講義では、社会学の基本的な発想を学ぶだけでなく、その応用にも取り組む。社会学は、近代的理性による近代社会の自己反省の学である。講義者自身は、「何のための社会学か」という問題意識を忘れてはならないと考える。望ましい社会のあり方について、受講生諸君とともに考えたい。特に、個人と社会の関係をめぐる社会学の根本問題については受講生どうしの討論の機会を設け、それが各自の立場を論理的に表明する訓練の場となるよう工夫する。本講義は、知識の深化とともに個々の思想を鍛えることを目標とする。	
		政治学	（67　山田竜作） 今日、国際政治の主体はもはや「国家」だけとは言えない。国境を越える「市民」の活動が政治的な重要性を帯び、「グローバル市民社会」や「グローバル・デモクラシー」が語られる時代である。同時に、「国境」の垣根が低くなる一方で、別の境界線（エスニシティ、ジェンダー、「文明」等々）による分断が非常に顕著になり、「アイデンティティの政治」もしばしば問題になる。異質な他者同士が日常的に接触するグローバル時代にあって、民主的な政治社会の担い手たる「市民」像が、改めて問い直されなければならない。本講義は、「市民」として現代世界の政治を見る目を養うとともに、「地球市民」としての資質すなわち「グローバル・シティズンシップ」について、理解を深めることを目的とする。 （67　山田竜作・121　藤岡祐次郎） 政治学の主要なテーマを通じて、政治とはどのようなものか現代政治が直面する課題とは何か、について理解するとともに、政治学を学ぶための方法、必要となる概念や知識、政治学特有の方法を習得することで、政治学の基礎力を養成する。さらに、政治学に関連する文献の購読を通して自ら理解を深めることのできる能力を養成する。	
		心理学入門	（34　鈎治雄） 本授業は、いわゆる心理学の入門である。心理学という学問をのぞいてみようと思っている人や、はじめて心理学に触れようとする学生は、ぜひ、受講されたい。前後期とも同じ授業であるので、前期か後期のいずれかを受講されたい。 （48　吉川成司） 天文学が占星術と異なるように、心理学は読心術とは異なるものである。 現代の心理学の研究領域は、基礎的・実験室的なものから、応用的・社会的なものまで多岐にわたり、学際的であると同時に、それぞれに専門分化しながら高度に発展しつつある。講義では、それら心理学のさまざまな世界について、具体的な研究例を織り交ぜながら講述する。	
		教養地理学	（115　久保幸夫） 日本と世界の食料、水、農業の問題について学習する。 日本は現在、カロリーベースで食料自給率が40%を切り、非常に低い状態にある。この一方、国内では耕作放棄地が増加し、高齢化による過疎地域も増加している。世界的には、食料の争奪が激しくなっており、日本は非常に困難な立場に追い込まれている。また、水資源の不足が食糧問題に拍車をかけている。 また、農業を知らない学生が多いので、農村への巡検（現地学習）を行います。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	社会・文化・生活科目	教養地理学 （つづき）	（115　久保幸夫） この授業の目的は、「主観的」な作品から、客観的な事実を引き出し、批評を書くことである。私たちが得る情報のほとんどは実は「主観的」な情報である。たとえば、テレビのニュースはかなり主観的であり、客観的と思われている科学論文でも主観的な部分が大きい。このように人間の主観、それを生み出す個人や集団の体験が重要であるという考え方を「人文主義」ないし「人間主義」（英語ではhumanisticという語をあてる）という。この授業では、もっとも「主観的」であると思われる映画を材料に使って、客観的な批評を導き出す方法を学習する。 景観は地理学の重要な概念であり（一般には「景観」は「風景」をいう意味であるが、地理学では「地的統一体＝地表の風景＋人間活動」という意味である）、ここには、文化、風土、宗教などさまざまな「主観的」要素が含まれている。 この授業では、①アメリカ、②アジア途上国、③旧社会主義国、④ヨーロッパ縁辺国　のいずれかをとりあげ、映画を見て評論を書く訓練を行う。学生は、自分でテーマを決め、映画作品3作品と参考文献を自分でさがし、評論を書く。	
	自然・数理・情報科目	数理科学	（109　望月光三） 数理的な手法が必要な文系の専門科目を履修するための準備として、一部高校の数学の復習を含めて、数学基礎を教授する。なお、「数学基礎b」では数学検定準2級の受験を単位認定のための「必要条件」とし、受験した者のみを対象に成績判定を行う。 （135　阿部隆一） この講義は、ともすると暗記して問題を解くだけ（そして忘れる）になりがちだった数学について、その起源や意味を理解し、数の概念、代数、幾何、確率・統計など数学上の項目のうち、特に生活や社会とかかわりのある内容を毎回取り上げ、その文化的背景や活用について講義を行う。また、「言語としての数学が使える力」、「体系的に数学を理解する力」、「数学に対して生き生きとしたイメージ・直感を持つ力」を養うために、毎回の授業後半では、思考力を高めるための数理練習問題を解説し、さらに各自で演習問題に取り組んでいただき「非言語能力試験」に見られる数学的能力の伸長を図る。 （132　門川和男） この講義はキャリアで活かせる二つの思考法について学ぶ。一つめの思考法は各学生が希望進路で活躍することができるように、グローバル コミュニケーションに必要な論理的思考法（ロジカル・シンキング）である。 もう一つの思考法は、前の論理的思考法により発見・分析された問題に対して、その解決方法を構想し意思決定をする戦略的思考（ストラティージック・シンキング）である。これらの二つの思考法により、各界のリーダーがどのように問題・課題を発見、分析し、解決しているのかについて学ぶ。 また、そうした思考法を鍛えるために各授業の終わりに数理練習問題と解説し、各自でこの数理練習問題に取り組んでもらう。	
		統計学入門	「統計学とは、一言でいえば、数量的なデータからそのデータの由来する諸現象に関する情報を取り出すための科学的方法とその理論の体系である」。日常的に私達は多くの統計情報に接していますし、社会の現象を理解する上で統計の知識は必須です。また、自然科学に限らず、社会科学・人文科学の諸学問分野において、統計学の基礎的な知識は必要となっています。この授業は統計学の考え方と統計分析の基礎を修得することを目的としています。	
		物理科学	（57　崔龍雲） 現代社会では、電気が空気のように消費されている。例えば、エアコン、電子レンジ、携帯電話、パソコンなど、便利で高性能な電気製品に囲まれて生活している。ここでは、目に見えない電気の正体をはじめ、電気の生成原理やその発電システム、配電と充電、身の回りにある電気機器の原理やそのしくみなどを学習する。それに加えて、情報社会を支えている身近で大切な光を含めた電磁波について学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	自然・数理・情報科目	物理科学 （つづき）	（57　崔龍雲） 現在、我々の生活から切り離すことのできないラジオやテレビをはじめ、携帯電話、防災無線、航空機・列車無線などの各種通信機器には電波が使われている。しかし、この存在を人間の五感で感知することができないので、その正体はつかみにくい。ハイテク時代を支えている身近で大切な電磁波（電波）について、現実生活の中で実用化されている具体的な各種電子機器をとりあげ、その原理としくみ及びセンサの役割について学習する。 （63　石井良夫） 道具としての簡単な数学を使って、物理学の基本である力学と熱力学、統計力学についての話をします。基本的には物理学の授業ですが、関連する幅広い科学について、また身近な科学についての興味ある話もします。授業の進め方としては、講義形式でなく参加型授業で行う予定です。 具体的な内容として、速度、加速度、力、運動量、エネルギー、などの古典力学（ニュートン力学）について、また、熱、温度、カロリー、圧力などの熱力学、統計力学について、応用事例を踏まえながらわかりやすく授業を進めます。 （63　石井良夫） 簡単な数学や物理学を使って、ちょっと変わった不思議な科学についての講義をします。基本的な数理科学をベースに進めますが、必ずしもそれらの基礎知識を必要とはしません。幅広い科学の中でも空間（次元）、速さ（光の性質）などについての基礎から応用まで、また最先端の内容について興味深い話をします。 複雑系科学については、カオスやフラクタルなどの内容が関連して出てきますが、複雑系科学一般の内容をすべて網羅していません。あくまでも不思議な科学のはなしに重点を置きます。 講義は、座学でなく参加型授業で行う予定です。科学というと文系の方々は難しいイメージを持ちますが、我々の生活に大変身近なものです。科学の面白さと応用可能性に興味をもっていただければ幸いです。	
		コンピュータ・リテラシー	看護学生に必要な「情報活用の実践力」を習得する。具体的には、疫学統計学で学ぶ内容に沿った資料を集め、表計算ソフトを用いて目的に応じてデータを分析し、ワープロを使ってレポートを作成する情報スキルを身につける。テキスト通りに操作できるというレベルを超えて、自分の頭で考えて形にするというレベルを目指す。また、本授業を通じて、情報やデータの保護・管理という情報リテラシー、モラルについても身につける。	
		情報科学	（45　坂部創一） 「QOL（Quality of Life: 生活の質）を向上させるための情報環境の活用・構築の方法について講義する。情報化社会の影の側面を抑制し光の側面をさらに促進して個人と社会のQOLの向上を目指す研究の方法と研究事例について社会工学的な視点から概観する。 （59　渥美雅保） 人間のように外界を認識し自律的に行動する知能ロボット、人間と対話をして人間を支援する知能ロボットの実現が、夢から現実に少しずつ近づいてきている。しかし、人間の対環境・対人認知能力に比べてロボットのそれらは未だはるかに及ばない点がたくさんある。本講義では、人間の視覚・聴覚・言語・対話といった能力が生み出されるしくみを学習する。また、それらをコンピュータやロボットで実現するための方法についてその概要を学習する。 （65　劉継生） 高度に発達した情報社会は、企業の生産と経営を再編し、人々のライフスタイルに変化を引き起こし、社会の秩序形成に大きな影響を与えている。なぜ、このような再編・変化・影響が生じるのか。これはその情報現象に内在するしくみや構造の働きによるものである。さまざまな情報現象のしくみや構造からなる基本原理を理解することが、情報と社会を学ぶ目標であると考える。 スマートフォンのような手段がどんなに進歩しても、情報処理の過程と中枢そのものは変わりません。つまり、手段は多様に変化しますが原理は不変です。こうした変わらない原理は、文科系や理科系を問わず、すべての人が身に付けるべき情報リテラシーです。 本講義では、情報社会の基本原理を、認知、心理、社会、哲学、倫理などの幅広い視野からわかりやすく説明していきます。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	自然・数理・情報科目	情報科学 （つづき）	（110　宮本勉） 現代社会はインターネットを代表とする様々な情報システムに支えられています。情報に関する素養は、一昔前では情報技術者が身につけるべき知識と認識されていましたが、現在では情報社会で生活するために不可欠であるとして、すべての人にとって必須になっています。大学において文科系・理科系を問わずすべての学生が学ぶべき必修科目として、情報処理学会の報告書「大学等における一般情報処理教育の在り方に関する調査研究」の中で、詳しいシラバスが示されています。本講義は、この報告書に示された「情報とコンピューティング」に準拠しつつ「情報システムの仕組み」を広い視野でわかりやすく説明していきます。	
		生命科学	（⑦　佐々木諭） 本講義は、学生生活ならびに生涯にわたる健康で充実した生活のために、健康と医学の基礎知識を習得し、健康な生活のため考える力を身につけることを目指し、医学・医療のプロフェッショナル達をゲストスピーカーとして招くことも予定している。 はじめに、健康で充実した大学生活に役立つ“医学・医療の基礎知識”を身につけられるよう、学生生活にとり重要な健康と医学のトピックを取り上げ概説します。つぎに、生涯にわたり心身ともに健康で豊かな人生を過ごすために、疾病予防と健康管理に必要な知識を習得し、そして、我が国が直面する高齢化社会、世界で起こっている健康と医療の問題に関し講義し、その解決法を探ります。 （30　木暮信一） 近年における生命科学とバイオテクノロジーの進展にはめざましいものがある。それらがもたらす社会的影響には甚大なものがあり、医学の分野においては、それが先端医療というかたちになって直接的に“生命”に関わりながら、「生殖医療」「延命医療」としてさまざまな生命倫理問題を突きつけている。今後も生命科学・バイオテクノロジーの潮流は勢いを強めると予測されるので、その内容を正確に認識し、問題点を把握し、解決の方途を模索することは重要なことと考えられる。ここではいくつかのトピックスを取りあげ、その生命倫理問題を学際的に考えてみる。 「脳死・臓器移植」 「安楽死・尊厳死」 「ニューロエシックス」 「生殖技術」「クローン人間」をめぐる問題 「“受精卵”は人か物か」および「“人体”は人か物か」を考える 「人と動物の境」および「生と死」に関する哲学的考察 （37　中嶋一行） 生命の基本単位が細胞であることは周知の事実であるが、細胞のことを詳しく学んだら「生きていること」を理解できるかというと、決してそんな単純なことではない。細胞から出来上がっている「生物」が、どのようにして生まれ、生命を維持し（生きて）、死んでいくのか、その生命現象の仕組みこそ、多くのひとびとが興味を持ち、知りたいと思っているところです。この授業では、生物の一生について、すなわち生物が生まれてくる仕組み、生命を維持していく仕組み、老化、寿命、死の仕組みをとりあげ、15回にわたり解説していきます。 （50　丸田晋策） 生体内でおこっている巧妙な生命現象のなかでとくに興味深いものをえらび、文系の学生にも興味が持てるようにトピックスを盛り込み、また日常生活にみられる類似の現象と対比させてやさしく解説する。たとえば、エネルギーとして生体で利用される糖の構造を楽しく理解するために、果物は冷やすと甘くなるか? 、おいしい焼き芋の作り方、カニの甲羅はカルシウムではなくて、人工皮膚に利用される糖であるなどを分子レベルで説明していく。またミカンとサツマイモを用いて、糖の構造変化と酵素の性質を調べる簡単な実験を行い、生化学的に分子レベルで結果を考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	自然・数理・情報科目	生命科学 （つづき）	（概要）身の回りの物質や現象を理解し、これらの物質や現象が私たちの生活とどのような関係があるのか、さらに安全・健康に生きるために必要な知識を得ることを目的とする。さらに、遺伝学の基礎、遺伝子DNAの基礎、進化の考え方を学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （53　関篤志/8回） ・身の回りにある物質が何から構成されているかを理解する。 ・身の回りの物質が身体や環境に対してどのような影響を及ぼすかを理解する。 ・身近な現象を化学反応の見地から理解する。 （61　近藤和典/7回） ・遺伝学の基礎を理解する。 ・生命の進化とヒトの関連を理解する。	オムニバス方式
		環境科学	（62　新津隆士） 　生活環境の科学の内容は身近にあるお茶、例えば緑茶、紅茶、烏龍茶、更にはハーブティーなどの成分やその効用について学んだり、味と香りについて化学的に捉えたり、健康食品・お酒・洗濯・ヘアケア・歯の健康管理について学び、身の回りにある毒を有する危険なものについて学びます。要するにこの授業は、日頃何気なく接しているものを化学的に理解し、今後の何十年かを日々安全かつ健康的に生きるための知識を養うことなのです。 （69　井田旬一） 　地球温暖化問題に関してインターネットやテレビなどでさまざまな意見や説が飛び交っているため、いったい何を信じて良いのか混乱してしまう。出版された書籍であったとしても温暖化に対する正しい理解を妨げる浅薄な議論が少なからず存在する。そこで本講義は地球温暖化問題がI）どのようにして発見され予測されてきたか、II）どのような原因により起こったのか、III）どのような技術によって克服するのか、IV）どのようにして技術を普及させるのか、といったステップで理解を深めていく。本講義は地球温暖化に対する正しい理解と情報選択をする手がかりを提供する。 （69　井田旬一） 　地球環境問題への入門的授業で、以下の到達目標を掲げて授業を行う。 ・温暖化のメカニズムについて図表等を用いて説明できる。 ・温暖化の影響について6つ程度は挙げられる。 ・京都議定書の基本的な事柄について説明できる。（約束期間、対象ガス、数値目標等） （82　久米川宣一） 　「植物」は長い歴史の中で多種多様に進化し、人類のみならずすべての陸上生物の生命を支える酸素と食料を提供している生物である。本講では、我々の周りに存在する多種多様な植物の持つ特徴とその有用性について解説を行う。中でも野菜やハーブ・大学内の植物など身近な植物を通して、植物が様々な生物の生活に関与し、寄与していることを解説する。この解説を通して、我々が日常的に周りに生育する植物によって、生活面・精神面に多大な影響と恩恵を被っていることへの理解を深め、植物や環境を大切にしていくことを学ぶ授業としたい。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目		自然・数理・情報科目	プログラミング	（72　杉本一郎） キャリア形成において必要となる、グラフ作成から、統計処理、データーベースの理解・利用をエクセルを使用して全般的に学ぶ。本講義では、自分の履修した時間を中心に、大学内のPC教室においてe-Learning教材を用いて学習する。 （110　宮本勉） Windows 上で動くグラフィカルなプログラムを作成するためのプログラム言語 Visual Basic（VB）を用いてプログラミングの基礎を学ぶ。最初にプログラムとは何かということについて学び、 VB を用いてパソコン画面上のインターフェイスを作成する。 （110　宮本勉） Webページの発展により私たちのまわりには情報やメディアがあふれています。Webページ構造を理解することにより、情報の利用や作成の方法について学んでいきます。 具体的にはWebページ作成に必要なスキル、テーブル、スタイルシート、JavaScriptについて実習を通して学び、自身のWebページを作成するための基礎力を育てます。	
専門科目	専門基礎分野	人間のからだとこころ	構造機能学Ⅰ	（概要）人体の構造（解剖）と機能（生理）に関して、看護実践に重要なことに焦点をあてて学ぶ。機能に関する知識を、構造や分子レベルでの現象（生化学）と関連づける習慣を養う。 序論として解剖生理学の知識と深い理解が看護実践の土台となることを述べ、ホメオスタシス（恒常性）とフィードバック機構の重要性を学んだ後、細胞と組織、皮膚と膜、血液、循環器、呼吸器、消化器、泌尿器のジャンルごとに学ぶ。原則としてまず正常な人体の構造を、次にその機能を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （①　中泉明彦／14回）看護の土台となる解剖生理、細胞と組織、血液、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系 （84　鮫島俊朗／1回）皮膚と膜	オムニバス方式
			構造機能学Ⅱ	（概要）構造機能学Ⅰに引き続いて、人体の構造（解剖）と機能（生理）に関して、看護実践に重要なことに焦点をあてて学ぶ。 機能に関する知識を、構造や分子レベルでの現象（生化学）と関連づける習慣を養う。解剖生理学の知識と深い理解が看護実践の土台となることを前提に、内分泌、生殖器、骨格、筋、神経、感覚、免疫のジャンルごとに学ぶ。原則としてまず正常な人体の構造を、次にその機能を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （①　中泉明彦／8回）内分泌・骨格系・筋系,免疫系 （85　石川てる代／2回）生殖器系 （86　根本正史／3回）神経系 （87　永田洋一／1回）感覚器（聴覚） （88　國友万由美／1回）感覚器（視覚）	オムニバス方式
			生化学の基礎	（概要）生化学の基礎知識をわかりやすく解説し、健康な生体機能と病気の成り立ちに関する深い理解につなげる。疾患との関連を重視した代謝や遺伝子について学ぶ。生化学を学ぶために必要な化学の基礎知識、代謝総論、生命維持に必要な栄養素の構造と性質、酵素、糖質・脂質・タンパク質・核酸代謝、エネルギー代謝の統合と制御、遺伝情報、代謝と疾患について学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門基礎分野	人間のからだとこころ	病態生理学	（概要）看護実践の役に立つ病気の成り立ち（病態生理学）の基礎知識を学ぶ。患者の体に起きている変化を深く理解できるようにする。疾病の回復を促進する医学的治療を理解するための基礎知識を習得する。原則としてまず構造と機能の異常（病理病態）を、次に症状とその成り立ち（病態症候）を学ぶ。病理病態として体液の異常、血行障害、炎症と修復、免疫および免疫疾患など、病態症候としてショック、意識障害、発熱･低体温、浮腫、倦怠感などについて学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （①　中泉明彦／10回）序論、体液の異常、炎症と修復、血行障害、浮腫・倦怠感、呼吸困難、消化・吸収障害、免疫・免疫疾患、腫瘍、まとめ （86　根本正史／4回）運動神経麻痺・痙攣、意識障害、発熱・低体温、加齢と死 （89　加塩信行／1回）ショック	オムニバス方式
			栄養学	（概要）生活現象を続けていくために外界から摂取しなければならない食物の成分を栄養素といい、たんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミン、無機質に分類される。栄養学はこれら栄養素が生体内でどのように利用され、からだに影響しているかを探求する学問であり、その知見を主に講義形式で紹介する。食生活のあり方や栄養摂取が健康のベースであるということを、履修生が認識できるようになることを目標に講義を進めたい。授業計画として、栄養素の種類とはたらき、その消化・吸収、エネルギー代謝等について解説し、さらにライフステージと栄養等にも触れる。	
			診断治療学Ⅰ	（概要）臨床で役立つ「疾患の知識」を学ぶ。疾患の数を精選し、ジャンルごとに解説する。血液・造血疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、代謝・栄養疾患、腎・尿路疾患、水・電解質異常、内分泌疾患について学ぶ。 （オムニバス方式／全30回） （①　中泉明彦／10回）序論、消化器疾患、代謝・栄養疾患、まとめ （90　小林広幸／4回）血液・造血疾患 （91　庄司正昭／4回）循環器疾患 （92　近藤和也／4回）呼吸器疾患 （93　江渡加代子／4回）腎・尿路疾患、水・電解質異常 （94　平沢龍登／4回）内分泌疾患	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門基礎分野	人間のからだとこころ	診断治療学Ⅱ	(概要)臨床で役立つ「疾患の知識」を学ぶ。疾患の数を精選し、ジャンルごとに解説する。 生殖器疾患、整形外科疾患、神経・運動器疾患、自己免疫・アレルギー疾患・免疫不全、感覚器疾患、感染症、精神疾患、子どもの疾患について学ぶ。 (オムニバス方式／全30回) (① 中泉明彦／1回)まとめ (85 石川てる代／2回)生殖器疾患(女性) (95 後藤智隆／2回)生殖器疾患(男性) (96 五十嵐有紀子／4回)整形外科疾患 (89 加塩信行／4回)神経・運動器疾患 (97 廣瀬恒／4回)自己免疫・アレルギー疾患・免疫不全 (98 酒井英樹／2回)感覚器疾患(眼) (88 國友万由美／2回)感覚器疾患(耳) (86 根本正史／3回)感染症 (99 木内健二郎／3回)精神疾患 (100 新井勝大／3回)子どもの疾患	オムニバス方式
			薬理学	（概要）薬理学では、薬物（医薬品）と生体との相互作用によってどのような効果（薬理作用）が現れるかを理解する学問である。医薬品とは主として患者の疾病の治療に用いられるものであり、効果的に薬物治療を行うためには、医薬品に対する基本的な知識の習得が必要である。そのため、薬理学は総論と各論に分けて講義を行う。総論では、薬物の生体内動態、すなわち薬物の摂取、吸収から排泄までの薬物の挙動を中心に、薬物相互作用なども理解していく。各論では、疾病別に中心となる薬物治療を薬物の作用機構や副作用との関連などを含めて理解していく。	
			心理学	（概要）看護師に必要とされる「患者やその家族の理解」「援助の理論と技法」「コミュニケーション能力」を培うために必要とされる心理学の知見を講義する。具体的には、前半では発達段階ごと（胎児期・新生児期・乳幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期）の心理的特徴の知見を講義する。後半では、「看護師の自己理解と患者理解」「患者と家族」「病院における患者の生活空間」「看護師のコミュニケーション」「妊産婦の心理的特徴」「高齢者介護と家族」「看護師のメンタルヘルスと職場環境」など、看護にまつわる人間関係に関する心理学の知見を講義する。	
			看護とリハビリテーション	（概要）リハビリテーションの理念と知識を正しく理解し、障害をもった人が「自分らしく、よりよく生きる」ために必要な支援は何かを理解し看護の各専門分野で実践できるようにする。その上でチームケアの共通認識と役割を理解し、保健・医療・福祉職との協働連携できる専門職を育成することを目標とする。講義ではリハビリテーションの基礎知識、評価と治療、ADLとQOL向上を目指したリハビリテーション、関連機器の活用、生活環境等について、演習では動作介助について、看護の現場で必要な知識を学ぶ。	講義24時間 演習6時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門基礎分野	健康と社会	人間関係とコミュニケーション	（概要）医療従事者は、患者や他の医療関係者と良い人間関係を築くことが重要であり、高いコミュニケーション能力が求められる。本講義では、人間関係を築く要因を探り、他者との関係形成にコミュニケーションスキルの活用の重要性を教授する。さらに看護師に必要な人間関係の構築のための知識・技術の習得を目的とし、体験的に理解できるように講義とロールプレイング、ロールプレイングの振り返りの流れで授業を展開する。最終的には、コミュニケーションスキルである傾聴、共感、要約して表現できる力を養う。 （オムニバス方式／全15回） 講義4回 （⑤ 五十嵐愛子／2回）看護者にとってコミュニケーションを学ぶ意義を確認し、人間関係の構築に影響する要因及び基礎理論を教授する。授業は、学習内容ごとに、「講義→演習→振り返り」を先行させ、次いで、「学びの共有・自己理解の深化→課題シート提出」の順序で行う。 （⑥ 本田優子／2回）良好な人間関係を構築するために活用できる、コミュニケーションの基礎となるスキルを、演習に先立ち講義する。具体的には、聴く・質問する・自己開示する・フィードバックする・投げ返す・説明する等のスキルについて講義する。また、コミュニケーションと情報の関連性等についても解説する。 演習11回 （⑤ 五十嵐愛子、⑥ 本田優子※2年目より担当、② 村島さい子※1年目のみ担当）聴く・質問する・自己開示する・フィードバックする・投げ返す・説明する等のコミュニケーション・スキルをロールプレイングを取り入れた方法で体験学習により習得する。また、この体験的なスキル学習を通し、肯定的で対等な人間関係づくりの基本的な態度を養う。演習では、構成的グループエンカウンターの手法を取り入れて実施する。このプロセスを通し、自己理解・自己受容、他者理解・他者受容、信頼体験、感受性の促進等の向上をはかり、自己の可能性を探索する。	オムニバス方式 講義8時間 演習22時間 共同
			健康と生活	（概要）人間の生活と健康・疾病の関連について多面的な側面から教授するとともに、健康増進・疾病予防に向けた取り組みについて、理解できるよう教授する。これらを通し、看護の対象となる人間について、生活と健康の視点から総合的にとらえる力を養う。 （オムニバス方式／全15回） （④ 長沼貴美／2回）人生の基礎となる乳児期の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について教授する。また、乳幼児の健全な成長・発達を促すための養育者等周囲の適切な対応と環境整備の方法についても教授する。さらに、学童期における発達課題を、身体的・心理的・社会的特徴と、この時期における健康課題であるむし歯や肥満などを近年の学童期の生活との関連から教授する。これらを踏まえ、乳幼児期・学童期の発達課題・健康課題と生活との関連について教授する。 （⑥ 本田優子／2回）第二次性徴が出現し、身体的・心理的・社会的変化が大きい思春期の特徴を講義し、この時期の発育・発達に影響を与える遺伝、自然環境、社会環境などの要因について教授する。さらに、青年期の身体的・心理的・社会的側面の特徴と発達課題・健康課題について講義し、健康と生活の関連から青年期の人々における健康への関心やセルフケア能力の獲得の重要性を教授する。 （⑮ 藤田美江／3回）人間の生活と健康・疾病の関連を教授する。また、学生が自分の生活を振り返る機会として、生活リズム・食事・身体活動等を記録し、それに基づいたディスカッションを行う。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門基礎分野	健康と社会	健康と生活 （つづき）	(⑭　奥山みき子／3回）高齢期の身体的・心理的・社会的特徴について、現在の状況だけでなく高齢者の生きてきた過程を含めて理解できるよう、乳幼児期～成人期まで講義と関連させ、また我が国における高齢者の生きてきた時代背景も踏まえ講義を行う。また、高齢期の発達課題・健康課題についても概説し、高齢期における健康と生活との関連を考察できるよう教授する。さらに、最終回に総括として、健康課題と生活の関連について述べるとともに、ヘルスプロモーションの概念を教授する。 (㉔　田中利枝／2回）思春期～成人期における女性特有の健康課題について、女性の身体的・心理的・社会的特徴に基づいて講義を行う。さらに、女性特有の健康課題とそれに関連する遺伝、自然環境、社会環境などの要因について概説し、女性特有の健康課題と生活との関連について教授する。 (㉕　今松友紀／2回）成人期の身体的・心理的・社会的特徴を概説し、この時期における発達課題について教授する。さらに、成人期の健康課題である生活習慣病やメンタルヘルスについて、その発生機序を成人期の生活の特徴との関連から教授する。 (⑭　奥山みき子・④　長沼貴美／1回）人間の正常な発達や加齢を維持し、強化し、保全するために、衣・食・住・運動・休養等の日常生活の取組みについて理解する。特に、人の生涯に渡る成長と発達という観点から、小児・高齢者の身体・心理・社会的特徴について理解を深められるようにする。	オムニバス方式
			生命倫理	（概要）近年のライフサイエンスの急速な進展により派生してきた、ES細胞・iPS細胞に関する研究や人工授精・体外受精・人工妊娠中絶などの「生をめぐる生命倫理問題」や、脳死・臓器移植や安楽死・尊厳死などの「死をめぐる生命倫理問題」に注目が集まっている。 　看護の現場ではこうした問題に直面することになるが、ライフサイエンスの内容を学ぶとともに、生命倫理学（バイオエシックス）を学ぶことも重要である。ここではライフサイエンスとバイオエシックスの概略的な歴史を最初に学び、その中で提唱されてきた生命倫理問題に対峙する思想・哲学を学ぶ。そうした知識をもとに、後半では「生命操作技術や延命操作技術はどこまで許されるか」等の具体的問題について幅広いディスカッションを行う。 （オムニバス方式／全15回） （30　木暮信一、101　山崎達也／1 回／共同指導）イントロダクション （30　木暮信一／6 回）生命科学と生命倫理問題の接点 （101　山崎達也／5 回）生命倫理問題解決への思想・哲学 （30　木暮信一、101　山崎達也／3 回／共同指導）総合ディスカッション	オムニバス方式 共同
			社会保障・社会福祉論	（概要）社会保障・社会福祉の基本理念と看護に関係する制度の基本的仕組みを理解する。取り上げるテーマは、以下のとおりである。 「社会保障の基本理念、発展の歴史と全体像」「医療保険の仕組み、現状と課題」「医療提供体制の現状と課題」「社会福祉の基本的仕組み」「障害者問題の理念と自立支援の仕組みと課題」「高齢者福祉の現状と課題」「児童福祉と少子化対策の動向」「生活保護制度の現状と課題」「介護保険の仕組みと現状」「年金制度の仕組みと現状」「雇用問題と労働保険の仕組み」「少子高齢化と社会保障の課題」について解説する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門基礎分野	健康と社会	公衆衛生入門	(概要)健康・疾病に影響を及ぼす社会的要因について多面的に理解できるよう、健康・疾病と社会の関連について、物理的環境・人的資源・地域保健医療福祉、社会制度等の観点から教授する。また、公衆衛生の対象としての個人および集団(population)と、個人および集団の疾病の予防(一次予防・二次予防・三次予防)、健康増進(ヘルスプロモーション)の意義と方法を理解できるよう講義を展開する。さらに、保健・福祉・医療の各制度を整備充実させていくための健康政策の意義と戦略についても習得させる。 (オムニバス方式/全8回) (⑮ 藤田美江／4回)公衆衛生の定義、健康・疾病に影響を及ぼす社会的要因、保健・福祉・医療の各制度を整備充実させていくための健康政策の意義について教授する。 (⑭ 奥山みき子／2回) ①疾病予防(一次予防・二次予防・三次予防)の意義と方法 公衆衛生における疾病予防が、一次予防・二次予防・三次予防から成り立っている事、それぞれの定義と予防対策の方法について教授する。 ②健康増進(ヘルスプロモーション)の意義と方法 疾病構造の時代的変遷と公衆衛生の取り組みにおけるパラダイムシフト(疾病予防からヘルスプロモーションへ)について講義を行い、ヘルスプロモーションの定義と意義、また具体的な取り組み方法について教授する。 (㉕ 今松友紀／2回) ①公衆衛生の対象が、個人および集団、そして複数の集団が集まった地域全体である事を教授すると共に、個人・集団・地域のそれぞれの定義と特徴について講義を行う。 ②地域診断は、公衆衛生の対象が地域全体であることと健康・疾病に影響を及ぼす社会的要因をふまえ、地域を診断する視点を、地域診断の側面から教授する。具体例として都道府県・政令市の保健所、市町村の保健センターなどの活動を紹介し、対象が地域住民全体であることや疾病予防・健康増進など予防的意義の高い活動を優先する公衆衛生看護活動の特徴を教授する。	オムニバス方式
			疫学・保健統計	(概要) 疫学とは、人間集団を対象とし、健康状態、疾病の分布、頻度、要因を明らかにし、予防・治療の方途を探究する学問である。本授業では、疫学の定義と歴史を概説し、疫学研究のデザインと方法論、疫学の実践について説明する。あわせて、看護・保健活動の実践に必要とされる統計学的能力として、死亡率、平均寿命などの人口統計指標の読解、統計データのまとめ方、統計学的有意差検定、回帰分析の手法を教授する。さらに、量的データと質的データを用いての解析法とデータの図示化を説明する。	
	看護の専門分野Ⅰ	看護の基礎科目	看護学概論	(概要) 看護学概論は、看護学の学習の基盤となる知識・態度・看護観を育成することをねらいとする。看護に含まれる基本概念(人間・健康・環境・看護)について理解を深め、看護の本質・目的・対象・役割・機能などを学習しつつ、「看護とは何か」を探求していく。さらに、看護・医療の歴史を振り返り、看護実践に求められる科学性や倫理性の根拠、専門職としての発展の経緯について概説する。特に看護実践と倫理については具体例をあげて解説する。	
			生活援助技術Ⅰ	(概要)看護は、その人の生きる力を最大限に引き出すように生活行動を援助していくことであり、その実践は、科学的根拠に基づいて行われ、創造的に展開されていく。生活援助技術Ⅰでは、具体的な看護活動の基本となる共通技術と生活援助技術を取り上げ、全人的に人間の営みを理解し、看護実践能力の基盤となる看護技術の習得を目指す。 講義6回 (⑰ 青木涼子／6回)講義では、看護技術とは何か、看護行為に共通する技術とは何か、看護において不可欠なコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、病床環境の調整に関する基礎的知識を学ぶ。 演習9回 (⑯ 林真理子、⑰ 青木涼子／共同指導)演習内容としては、すべての看護行為の前提となる手洗い・コミュニケーション技術、病床環境の調整、ベッドメーキング、臥床患者のシーツ交換である。	講義12時間 演習18時間 共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅰ	看護の基礎科目	生活援助技術Ⅱ	(概要)看護学概論で学んだ人間・健康・環境・看護の概念、および生活援助技術Ⅰで学んだ看護技術の考えを基盤に、人間の生活行動を振り返り、その人がその人らしく生活していくために必要としている生活援助技術のうち、活動・休息の援助技術、安楽確保の技術について基礎知識と根拠に基づき援助する方法を習得する。 講義8回 (⑯　林真理子／8回)講義では各自の日常生活を振り返り、共通性と個別性を考察する。また、人間にとっての活動の意義、体位変換による生理的変化、不動状態による弊害、ボディメカニクスの原理について教授する。 演習7回 (⑯　林真理子、⑰　青木涼子／共同指導)演習内容としては、体位変換、車いす・ストレッチャー移送、マッサージ・指圧、温罨法・冷罨法である。演習では、援助における患者と看護師の役割を体験し、その人に応じた援助方法の必要性を理解する。また互いの学びを共有し発展させていく。講義と演習を関連づけて行う。	講義16時間 演習14時間 共同
			生活援助技術Ⅲ	(概要)生活援助技術Ⅰ・Ⅱに引き続き、生活援助技術Ⅲでは、身体の清潔の援助を取り上げ、その人に応じた援助方法を習得する。演習では患者と看護師の役割を体験し、患者としての体験を看護技術の向上に生かしていく。授業は、講義と演習を関連付けて行う。 講義3回 (⑱　能見清子／3回)講義では人間にとっての衣生活・清潔の意義、入浴・清拭・洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄・口腔ケア・爪切りの援助の意義・方法・根拠について教授する。 演習12回 (⑯　林真理子、⑱　能見清子／共同指導)患者の日常生活における基本的ニードを充足させるための生活援助技術(寝衣交換、全身清拭、洗髪、手浴、足浴、陰部洗浄、口腔ケア、爪きり)を習得していく。DVD視聴、デモンストレーションによりイメージ化を図りながら、患者役、看護者役を体験し、看護師にとって必要な知識、技術、態度を身につける。さらに模擬患者を対象に、その方に適した清潔援助を計画し、実施する。	講義6時間 演習24時間 共同
			生活援助技術Ⅳ	(概要)生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにひき続き、その人がその人らしく生活していくために必要な生活過程における援助技術のうち、食生活の援助技術、排泄の援助技術について、基礎知識と根拠に基づき援助する方法を習得する。 講義7回 (⑯　林真理子／7回)講義では、食事・排泄に関する基礎知識、人間にとっての食事・排泄の意義、根拠に基づいた援助方法について教授する。 演習8回 (⑯　林真理子、⑱　能見清子／共同指導)演習内容としては、食事の援助技術、便器・尿器を用いた臥床患者への排泄援助である。演習では、援助における患者と看護師の役割を体験し、その人に応じた援助の必要性を理解する。また互いの学びを共有し、学習を発展させていく。さらに、生活援助技術Ⅰ～Ⅳで学習した看護技術の実践能力の向上をめざし、いくつかの看護技術を統合して援助の方法を考え実施する事例演習を行う。単に方法を学ぶのではなく、他者に援助するために必要な技術について学習する。	講義14時間 演習16時間 共同
			看護理論	(概要) ナイチンゲールから現代に至る主な看護理論家が、どのような独自の視点で、「看護とは何か」を探求し、「人間」や「健康」「看護」を意味づけ理論構成をしてきたか教授し、看護の見方・考え方 (看護観) が深まるように導く。また事例への活用方法を学ぶため、各理論の講義の後でグループディスカッションを行い内容理解の深化・具体化をはかる。 講義11回 取り上げる理論家「ナイチンゲール」「ペプロウ」「ウィーデンバック」「トラベルビー」「オレム」「キング」「ロジャース」「ニューマン」 演習4回 授業で取り上げなかった理論家 (ヘンダーソン、ロイ、レイニンガー、パースイ、ワトソン、ベナー) の中から、学生グループがひとつの理論を選び、グループワーク・プレゼンテーション・全体討議を行う。	講義22時間 演習8時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅰ	看護の基礎科目	フィジカルアセスメント	(概要)看護の対象である人間の身体的側面をアセスメントするために必要なフィジカルイグザミネーションの知識と技術を教授する。そこから得られた情報から正常・異常を判断でき、主観的情報と客観的情報とを関連付けて、生活行動のアセスメントをしていくための基礎を教授する。 講義7回 (⑨　五味千帆／7回)講義では、問診・視診・触診・打診・聴診について、バイタルサインの測定の意義・目的・方法、呼吸・循環・腹部・筋骨格系・神経系のフィジカルイグザミネーションとアセスメントの方法について教授する。 演習8回 (⑨　五味千帆、⑰　青木涼子／共同指導)演習内容としては、バイタルサインの測定、循環・呼吸・腹部・筋骨格系・神経系のフィジカルアセスメントである。確実なフィジカルイグザミネーションの習得のために技術チェックも実施していく。	講義14時間 演習16時間 共同
			臨床看護技術Ⅰ	(概要)本科目では、健康課題を有する人の疾病の診断や治療過程で必要となる看護技術に焦点をあてて教授する。この看護技術は医師の指示に基づき実施するものであり、身体侵襲を伴う危険が潜在している。臨床看護技術Ⅰでは、包帯法、滅菌と消毒法、導尿、浣腸、酸素療法、吸引療法の援助を取り上げ、安全かつ安楽に実施できる技術・知識・態度の習得をめざす。授業は、講義と演習で構成されており、演習では実際に医療現場で使用している医療物品を用いて、シュミレーションに実施し、技術の習得をはかる。 講義7回 (⑱　能見清子／7回)講義では臨床看護技術(包帯法、消毒法、無菌操作、浣腸、導尿、酸素療法、吸引療法)の目的、方法、根拠や留意点を教授する。 演習8回 (⑨　五味千帆、⑱　能見清子／共同指導)診療の補助に伴う安全・安楽な臨床看護技術(包帯法、消毒法、無菌操作、浣腸、導尿、酸素療法、吸引療法)を習得する。DVD視聴、デモンストレーションよりイメージ化を図りながら、シミュレーションを用いて、看護師にとって必要な知識、技術、態度を身につける。	講義14時間 演習16時間 共同
			臨床看護技術Ⅱ	(概要)健康課題を有する人の疾病の診断や、治療過程で必要となる看護技術に焦点を置き、医師の指示により実施され、身体侵襲が伴う静脈内採血、与薬の技術(経口・皮下注射・筋肉内注射・静脈内注射等)について教授する。 講義6回 (⑰　青木涼子／6回)講義ではそれぞれの技術の科学的根拠と安全・安楽に実施する方法を教授する。可視化ができない人体への看護技術であり、危険が伴うため科学的根拠に基づき、安全かつ安楽に実施する方法を教授する。 演習9回 (⑨　五味千帆、⑰　青木涼子／共同指導)演習内容は静脈内採血、経口与薬、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射である。シミュレーターを用いて、看護師にとって必要な知識、技術、態度を身につける。	講義12時間 演習18時間 共同
			看護過程演習	(概要)看護の科学的思考であり、看護実践の方法としての看護過程について教授する。この思考過程の情報収集・アセスメント・看護問題の明確化・看護計画立案・実施・評価について教授する。 講義6回 (⑨　五味千帆／6回)　講義では、看護過程の各プロセス(情報収集・アセスメント・看護問題の明確化・看護計画立案・実施・評価)の基礎的知識について教授する。 演習9回 (⑧　秋元とし子、⑨　五味千帆、⑯　林真理子、⑰　青木涼子、⑱　能見清子／共同指導)提供された課題事例を元にアセスメントを行い、看護問題を明確化し、看護計画を立案する。実施・評価についてはロールプレイを用いて展開する。毎回の演習には看護過程の展開の課題を行ってのぞみ、グループで疑問点などをディスカッションし、自己の看護過程の展開に活かしていけるよう教授する。	講義12時間 演習18時間 共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅰ	看護の基礎科目	基礎看護学実習Ⅰ	（概要）看護の対象者である患者とかかわり、対象を理解すると共に、看護師がどのようにして、その人の生きる力を引き出し、生活行動を援助しているか理解する。実習を通して、各自が、「看護とは何か」を探求し、自身の今後の成長の方向性をえがく。初めての実習であり、看護学生としての責任や臨床の場で看護実践を学ぶための態度を身につける。	臨地実習 45時間
			基礎看護学実習Ⅱ	（概要）既習科目の知識を活用しながら、その人との人間的な関わりを通して対象理解を深める。さらにその人が必要としているニーズに応え、日常生活を整えるための援助の一部を実施し、看護についての考えを深める。具体的には患者を受け持ち、看護過程を展開して、生きる力を引き出す看護を実践する基礎的能力を養う。	臨地実習 90時間
	看護の専門分野Ⅱ	成人看護学科目	成人看護学概論	（概要）成人期にある人は、大人として重要な社会的責任を担い充実している一方で、ストレスフルな状況で生活していることが多く、健康破綻を生じやすい。本科目では、このような発達段階にある成人の健康の保持・増進及び健康障害時とその回復に必要な看護の基本について学習する。具体的には、成人の対象特性、成人保健の動向と対策、成人の生活と罹患率の高い健康障害と要因を理解し、健康障害のレベルに応じた看護の基本について学ぶ。さらに、成人のアセスメントの枠組みと技法および看護過程の展開についてもおさえる。	
			成人看護急性期援助論Ⅰ	（概要）急性期看護の概念および特徴を理解し、周手術期および急性状況にある成人に対する看護について機能障害別に学ぶ。具体的には、成人とその家族の発達像、生活像の身体的・精神的・社会的な特徴を統合し、身体侵襲の予測と回避、生体機能回復、苦痛緩和、社会生活への適応に向けた看護実践のための基礎的知識を習得する。 （オムニバス方式／全15回） 講義15回 （③　大釜徳政／12回）急性期看護の概念とその特徴および、周手術期看護（術前・術中・術後）について講義し、続いて、機能障害により手術を受ける患者の看護（消化吸収障害、呼吸機能障害、循環機能障害、脳神経機能障害、運動機能障害）について具体的に教授する。 （⑪　田中博子／3回）周手術期にある患者の看護として、排泄機能障害により手術を受ける患者の看護、感覚機能障害により手術を受ける患者の看護、手術によりボディーイメージの変容を抱える成人の看護について講義する。急性期疾患の患者の家族への支援も含め身体侵襲の予測と回避、生体機能回復、苦痛緩和、社会生活への適応に向けた看護実践のための基礎的知識を具体的に事例を紹介しながら教授する。	オムニバス方式
			成人看護急性期援助論Ⅱ	（概要）成人看護急性期援助論Ⅰに引き続き、周手術期および急性状況にある成人に帯（対する）する看護について学ぶ。成人看護急性期援助論Ⅰで習得した知識を事例における看護過程展開に活用し、急性期患者への個別的な看護援助をどのようにして導くのかを演習を通して学ぶ。また、急激に健康状態が変化する成人期にある人への看護援助を行うための基本的技術を習得する。（術後モニタリング、輸液管理、BLS等） （オムニバス方式/全15回） 講義5回 （⑪　田中博子／3回）周手術期患者の看護過程について概説し、看護過程を展開するグループワークの導入とする。また、急性期看護における看護技術について教授し、演習によってこれを習得させる。 （⑲　大釜信政／2回）救急看護を受ける成人とその家族の看護として、救急看護の概念及び患者と家族の特徴を概説する。救急患者の身体的アセスメント、救急処置及び救急度・重症度とトリアージの基本について講義する。 演習10回 （②　村島さい子、③　大釜徳政、⑪　田中博子、⑲　大釜信政、㉑　三木珠美／共同指導）周手術期および急性状態にある患者の事例を通し、グループ分けされた学生が看護過程の展開を行う。学生らは導き出された看護問題を解決するための具体的な援助内容を挙げ、これらの援助に必要となる看護技術の演習を行う。（フィジカルアセスメント、術後創部の観察とドレーン管理、呼吸訓練法、離床援助、輸液管理、心電図モニター・12誘導記録等）	オムニバス方式 講義10時間 演習20時間 共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅱ	成人看護学科目	成人看護慢性期援助論Ⅰ	（概要） 自己管理が必要な慢性疾患を持ちながら生活する患者の、身体的・精神的・社会的特徴を講義し、慢性疾患を持つ人とその家族への支援の基本事項の理解をはかる。学習内容として、慢性疾患の概念と保健行動を支える理論（成人の学習理論、自己効力感モデル、コンプライアンス、セルフケア論など）について解説し、事例を用いて、疾病の受容過程や病の軌跡に迫る。機能障害別看護として代謝系機能障害、血液・免疫機能障害、および回復・維持期の看護を取り上げる。	
			成人看護慢性期援助論Ⅱ	（概要）成人看護慢性期援助論Ⅰに引き続き、慢性疾患患者が、疾病と生活の自己コントロールを行う為に必要な事項を講義する。疾病像・治療法の理解のもとに、身体機能の維持・回復、QOLの向上を目指すための具体的な看護について事例を用いて講義する。演習では事例展開と技術演習を行う。 （オムニバス方式／全15回） 講義8回 （② 村島さい子／4回）経過・機能障害別看護として、成人看護学概論、成人慢性期援助論Ⅰで学んだ理論等を活用し、基本となる看護内容を含む以下の看護について講義する。呼吸機能障害のある患者の看護（慢性呼吸不全患者）、運動機能障害のある患者の看護（関節リウマチ患者）、内部環境調整障害の患者の看護（腎不全・甲状腺異常）、脳神経系に障害のある患者の看護（脳梗塞）について、それぞれ、疾病像の理解、全身の観察とアセスメント、検査・治療に伴う看護、症状の緩和と進行予防の看護、食事療法、セルフケアの指導、家族の支援等について具体的な知識、技術、方法について、事例を用いて講義する。 （⑩ 添田百合子／4回）経過・機能障害別看護として、成人看護学概論、成人慢性期援助論Ⅰで学んだ理論等を活用し、基本となる看護内容を含む以下の看護について講義する。循環機能障害のある患者の看護（心不全）、生体防御の障害のある患者の看護（SLEなど）、消化吸収に障害のある患者の看護（クローン病患者）、内部環境の調整障害の患者の看護（肝不全）について、疾病像の理解、全身の観察とアセスメント、検査・治療時の看護、症状の緩和と進行予防の看護、食事療法、セルフケアの指導等に 演習7回 （② 村島さい子、③ 大釜徳政、⑩ 添田百合子、⑪ 田中博子、⑲ 大釜信政／共同指導）糖尿病患者の事例及び呼吸不全患者の事例展開を行い、技術演習として、血糖測定とインシュリン注射、食事療法・食事指導、酸素療法、気道浄化法、呼吸リハビリテーション等について演習を通し習得する。	オムニバス方式 講義16時間 演習14時間 共同
			成人看護学急性期実習	（概要） 周手術期の看護実践や救急外来での医療行為の見学を通して、急性の疾病や機能障害をもつ患者やその家族の健康問題を包括的に理解し、看護師として専門的援助を行うために必要な実践能力を養う。具体的には、周手術期の急性期にある患者を受け持ち、術前・術中・術直後および術後のアセスメント、看護上の問題点の抽出、目標を明確化した後に看護計画を立案する。その看護計画に基づき病棟看護師の指導のもとに個別的な看護実践を行う。また、カンファレンスを毎日行い、他の学生の受け持ち患者についての情報交換と、よりよい看護の提供のためのディスカッションを通して共有学習の場とする。 上記の内容に加えて、救急外来での現場見学を通して、救急患者に対するアセスメントの視点や救命処置、患者や家族に対する心理的援助の実際について学ぶ。	臨地実習 135時間
			成人看護学慢性期実習	（概要） 生涯にわたり健康管理が必要な疾患や状態、障害を持つ対象と家族へのセルフケアやソーシャルサポートについて、専門的援助を行うために必要な実践能力を養う。具体的には、病院に入院している慢性期、終末期にある対象者を受け持ち、健康上の課題を明らかにしつつ看護過程を展開し、個別的な看護実践を行う。慢性期疾患の対象には自立を目的とした健康管理や健康教育について、終末期の場合は、様々な苦痛を受け止め理解し、その人らしさを尊重した安寧な過ごし方への支援の実際を実践を通して学ぶ。 上記内容に加え、人工透析室とリハビリテーション室での実習を行い、病いとともに生きる人への理解を深め、看護の役割・機能を確認する。	臨地実習 135時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅱ	老年看護学科目	老年看護学概論	（概要）高齢社会の現状を通して、老年期にある人が、一定の健康状態を保ち、その人らしい生活が継続できるよう、「老年者」「家族」「生活環境」「ヘルスケアシステム」の観点から対象への理解を深める。老年看護の基本理念ならびに、老年者のライフステージの特徴や老年者の加齢による身体的、心理的、社会的変化から健康と生活への影響を教授し、さらに、老年者を取り巻く社会の特徴と諸問題、社会制度を踏まえ、老年者の自立（自律）と尊厳を守る老年看護の在り方について考えられるよう導く。	
			老年看護援助論Ⅰ	（概要）老年者の加齢に伴う生活への影響について概説し、健康状態や日常生活のありようが、一人ひとり異なることを理解させ、老年者を生活者として捉える考え方と視点を養う。さらに、あらゆる健康の段階にある老年者への日常生活援助の基本となるアセスメントの視点ならびに援助に必要な知識と技術について講義する。演習では、高齢者疑似体験学習を通し、老年者の立場を体験的に感得し、老年者の特性を尊重した具体的支援が考えられるよう導く。 （オムニバス方式/全8回） 講義7回 （⑫　東森由香／4回）看護の対象である老年者を全人的に捉えるためのアセスメントの視点を示す。 ①老年者を生活者として全人的に捉えるためのアセスメント、②持てる力と機能を見出し看護援助につなげるアセスメント、③認知機能、心理、情緒機能、活動と社会参加、生活環境を捉えるアセスメント、④感覚器障害と生活へのアセスメント、⑤姿勢保持能力と歩行能力のアセスメント、⑥基本動作と手段的日常生活動作のアセスメントについて、その視点と考え方を示す。さらに、コミュニケーションの特徴と阻害要因について講義する。 （㉒　松平裕佳／3回） 老年者の特性を踏まえた基本的な日常生活援助について講義する。 1.日常の生活リズムと看護ケア（生活習慣・睡眠・活動等） 2.日常生活を支える基本動作と看護ケア（運動・移動等） 3.日常の生活行動と看護ケア（食事・排泄・清潔等） 加齢に伴う変化の特徴について、高齢者疑似体験学習の成果を活かし、特有の看護用具や自助具等も用いた援助の具体的方法について教授する。 演習1回 （⑫　東森由香、㉒ 松平裕佳／共同指導） 高齢者疑似体験を通し、老年者の生活行動様式の特性と生活障害に対する援助のあり方を学ぶ。	オムニバス方式 講義14時間 演習2時間 共同
			老年看護援助論Ⅱ	（概要）老年看護援助論Ⅰに引き続き、老年者の日常生活の援助について講義する。さらに、老年期の健康障害・健康段階・治療過程の理解に基づき、これらが老年者の生活に及ぼす影響を踏まえ、個々の健康課題と家族の介護力に対応した看護ケアを実践・継続するためのアセスメントの視点と援助方法について学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） 講義9回 （⑫　東森由香／5回）老年者の健康の段階・治療過程に伴う援助について講義する。老年者に多くみられる症候として、脱水、尿失禁、摂食嚥下障害をとりあげ、アセスメントから実際の援助技術までを含めて教授する。さらに、認知・うつの看護、終末期の看取りの看護について解説する。また、家族の介護力を踏まえた援助のあり方を教授する。 （㉒　松平裕佳／4回） 老年者の治療過程への支援として、大腿骨骨折、肺炎、脳卒中の看護について取り上げ、高齢者の周手術期の看護、呼吸管理、リハビリテーション等について講義する。 演習6回 （⑫　東森由香、㉒　松平裕佳／共同指導） 演習では、グループ分けされた学生が、課題事例の看護過程を展開し、導き出された看護問題について、具体的な援助を展開する。内容としては、食事・口腔ケア・排せつ・経管栄養法・気道ケア・移動・社会資源の活用・介護保険の活用・家族の支援などを含む。	オムニバス方式 講義18時間 演習12時間 共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅱ	老年看護学科目	老年看護学実習	（概要） この実習では、介護施設（デイサービス含む）及び医療施設で実習を行う。こうした施設でケアを受けている高齢者の生活援助を通し、老年期にある人々の身体的、心理的、社会的変化が健康や生活面にどのような影響を与えているか具体的に学ぶ。高齢者の健康的な生活の維持と向上を目指した援助を通し、老年看護の実際を学ぶとともに、デイサービス等でかかわった高齢者とその家族を通し、老年期の人々の生活史を理解し、高齢者が生きてきたその時代の社会背景・特性を踏まえ、その人を総合的に理解する視点を学ぶ。さらに、老年期の特性をふまえ、高齢者の健康障害と生活の質の面から個別性を尊重した看護を実践するための知識・技術を習得し、老年看護に必要な能力・態度を養う。	臨地実習 180時間
		小児看護学科目	小児看護学概論	（概要）小児看護学における最初の講義となるこの小児看護学概論では、以下に示した①小児看護学における歴史的変遷や概念、諸理論および小児の人権、②小児における成長発達の基本的知識の習得、③小児の各発達段階（新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期）に応じた看護と援助、④小児と家族のアセスメント、⑤小児の事故防止と虐待、⑥小児と母子に関する保健統計、⑦外来における小児と家族の看護、⑧入院している小児と家族の看護について学習し小児と家族に対しての援助を導き出していく。 （オムニバス方式／全15回） （④ 長沼貴美／12回）小児看護学における歴史的変遷や概念、諸理論を踏まえながら、小児の成長発達と看護、社会環境と対策、小児と家族に対する関わり、小児と母子に関する保健統計について教授する。 （⑳ 佐藤美香／3回）病気や入院が小児と家族におよぼす影響について様々な視点を踏まえ学習する。外来と入院中の小児と家族への看護、検査治療時の援助やプレパレーションについて、小児が遭遇する事故とその特徴・予防策を学習する。また最近増加傾向にある虐待についても学習する。	オムニバス方式
			小児看護援助論Ⅰ	（概要）小児看護学援助論Ⅰでは、小児看護学概論での講義内容を基盤とし、小児の症状別（不機嫌・啼泣・発熱・発疹・痛み・嘔吐・下痢・脱水・浮腫・呼吸困難・チアノーゼ・咳嗽・出血・貧血・ショック・けいれん等）の看護について学習し、さまざまな健康障害が小児と家族に与える影響について考察を深めていく。 （オムニバス方式／全8回） 講義8回 （④ 長沼貴美／4回） 小児の症状別看護 ①不機嫌・啼泣・発熱・発疹・痛み ②呼吸困難・咳嗽・チアノーゼ・喘鳴 ③出血・貧血・ショック・けいれん 小児の状況別看護 ①急性期にある小児と家族の看護 （⑳ 佐藤美香／4回） 小児の症状別看護 ④嘔吐・下痢・脱水・浮腫 小児の状況別看護 ②慢性期にある小児と家族の看護 ③手術や検査を受ける小児と家族の看護 ④終末期にある小児と家族の看護	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅱ	小児看護学科目	小児看護援助論Ⅱ	(概要)小児看護援助論Ⅰに引き続き、小児の経過別(急性期・慢性期・周手術期・終末期・こころのケア・災害・先天性疾患と障がい等)における特徴と状況、それらに応じた看護について学習し、さまざまな健康障害が小児と家族に与える影響について考察を深めていく。さらに、小児看護の実践に不可欠な基本的知識・技術・態度について教授する。 (オムニバス方式／全15回) 講義7回 (④ 長沼貴美／4回)経過別看護① 急性期・慢性期・周手術期における小児と家族の特徴と状況、それらに応じた看護について教授する。 (⑳ 佐藤美香／3回)経過別看護② こころのケア、災害、先天性疾患と障がい、終末期にある小児と家族の状況及びそれに対応した看護について教授する。 演習8回 (④ 長沼貴美、⑳ 佐藤美香／共同指導)小児にかかわる上で必要な技術(バイタルサイン測定・身体計測・清潔・排泄・食事・与薬・検査・酸素療法・輸液の管理・心肺蘇生)について、それぞれの技術の目的・方法・留意点を踏まえた上でデモンストレーションを通しながら具体的に体験学習していく。また、事例を用いて小児における看護過程の展開をおこない、小児とその家族の健康問題を捉え、健康レベルに応じた看護援助について学習を深めていく。	オムニバス方式 講義14時間 演習16時間 共同
			小児看護学実習	(概要) この実習では、病棟、外来、保育園で実習する。保育園や小児外来での実習を通し、一般的な子どもの成長発達について理解し、発達段階の特徴に応じた支援の方法について学ぶ。さらに、病棟実習では、健康問題を抱えている小児とその家族に対し、必要な基礎的知識・技術・態度を修得する機会とする。病気や入院が小児とその家族に与える影響を考え、小児の権利を守りながら、より良い援助の方向性を導き出していく。そして、病気や入院していている小児であっても成長発達や基本的生活習慣の状況を捉え、維持・促進への援助ができるようにする。最終的には、子どもが置かれている社会環境を洞察し、小児と家族が抱えている健康問題を捉え、子どもと関わる人々との協働により、個別性に応じた看護を実践できるようにする。	臨地実習 90時間
		母性看護学科目	母性看護学概論	(概要) 母性機能、母性を取り巻く社会環境および母性看護の役割について学ぶ。また、母性の健康は、次世代の健康に受け継がれていくため、生命の継承に関わる母性看護の歩みと課題について各自の考えを深めることを目標とする。女性のライフサイクル各期における女性の特徴、健康問題と看護の役割について学習する。また、女性生殖器の形態と機能、性周期と月経について学び、母性機能が顕著である妊娠期の女性に焦点をあてて、妊娠に伴う身体的・心理社会的変化とその看護について学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅱ	母性看護学科目	母性看護援助論Ⅰ	(概要)母性各期の健康上の問題、特に周産期の女性に焦点をあて、その援助に必要な知識・技術を学ぶ。女性の健康支援の中核となる周産期の看護を中心に、妊娠期および分娩期の看護について学ぶ。特に、分娩の生理や産婦の心理に着目し、安楽なケアなどについても疑似体験を通して学ぶ。さらに、産褥期・新生児期についても、妊娠・分娩の一連の繋がりで理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) 講義13回 (⑬ 志村千鶴子／8回) 分娩期の看護に関する内容として、分娩の生理、分娩経過、産痛のﾒｶﾆｽﾞﾑと産痛緩和ケア、産婦への安全・安楽なケア・基本的ニーズ充足のケアについて講義する。また、産婦の事例を用いて具体的なアセスメントとケアについて学習する。さらに、産婦の心理に関する内容として、特に死産・障害をもつ児を出産した親の看護について倫理的な内容も含めて講義する。 (㉓ 片岡優華／2回) 妊婦の看護に関する内容として、妊娠期の女性の特徴、身体的・心理社会的ケア、妊婦健康診査に用いられる観察技術、家族役割調整について講義する。また、安楽ケアや出産準備教育について、講義し、具体的な支援については演習で学ぶ。 (㉔ 田中利枝／3回)褥婦および新生児の看護に関する内容として、出生直後及び早期新生児期の新生児の生理的変化と適応、産褥期の生殖器及び全身の変化と適応、褥婦の心理と生活適応について講義する。 演習2回 (⑬ 志村千鶴子、㉓ 片岡優華、㉔ 田中利枝／共同指導) 妊婦の疑似体験を通して、着帯、妊婦の腹部触診法、安楽ケア、分娩準備教育について具体的に学ぶ。	オムニバス方式 講義26時間 演習４時間 共同
			母性看護援助論Ⅱ	(概要)妊娠・分娩・産褥期にある女性の特性および新生児の特徴を理解し、母子を関連づけて、その援助に必要な知識、技術について学ぶ。特に、褥婦と新生児の身体的変化や心理社会的側面への影響と正常な経過を送るための看護、および健康を逸脱した場合の看護について学ぶ。事例を用いた看護過程の展開などを通して学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) 講義2回 (⑬ 志村千鶴子／2回)褥婦の看護に関する内容として、母乳育児支援の理論、母性看護における看護過程の展開、褥婦・家族の身体的・心理社会的ケア、母児の継続支援、法的保護について講義する。 演習6回 (㉓ 片岡優華／3回)褥婦の看護に関する内容として、産褥期の全身の変化と適応、褥婦の心理と生活適応、事例を用いたアセスメントとケアについて演習する。 (㉔ 田中利枝／3回)新生児の看護に関する内容として、早期新生児期の生理的変化、事例を用いたアセスメントとケアについて演習する。	オムニバス方式 講義4時間 演習12時間
			母性看護学実習	(概要) 現代の少子時代における母子を取り巻く環境、および周産期にある対象のニーズにあった母子への個別的・継続的支援の実際を学習し、母子保健における今後の看護職の役割を考察することを目的とする。周産期にある妊産褥婦・新生児の看護の基本を学ぶために、病院での実習を小人数グループで行う。ヘルスプロモーションの考え方に基づき、対象者がセルフケアによって安全で快適な妊娠生活、分娩期、産褥期を過ごし、新しい家族関係が構築できるように支援できる基礎的能力を養う。	臨地実習 90時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅱ	精神看護学科目	精神看護学概論	(概要)精神看護学は人間の精神に関わる看護を提供する学問であり、精神看護の対象は精神障害を持つ人とすべての看護学領域にある人である。本講義では、精神の構造と機能、精神の健康保持・増進および疾病の予防と回復を援助する精神看護の基本概念について教授する。また、欧米と日本の精神保健医療福祉の歴史を学び、精神障害者の人権尊重と精神看護を展開する看護師の倫理観を養い、看護職の果たす役割について理解する。 講義13回 (⑤　五十嵐愛子／13回)本講義では、精神の構造と機能、精神の健康保持・増進および疾病の予防と回復を援助する精神看護の基本概念について教授する。また、欧米と日本の精神保健医療福祉の歴史を学び、精神障害者の人権尊重と精神看護を展開する看護師の倫理観を養い、看護職の果たす役割について理解する。授業は講義を中心として、精神の構造、ストレス理論、セルフケア理論、ライフステージと危機、精神看護と法制度などを教授する。 演習2回 (⑤　五十嵐愛子、⑥　本田優子／共同指導)現代社会が抱えるメンタルヘルス問題、その予防と対応についてグループワーク・発表・討議を通して理解を深める。	講義26時間 演習4時間 共同
			精神看護援助論	(概要)この授業は精神看護学概論など既習の知識を踏まえ、精神の健康維持および精神障害からの回復に必要な基礎的な援助の視点および援助の方法・技術・態度について理解する。授業は講義と演習をもって展開する。講義では、精神看護の対象とその家族、精神科治療に伴う患者の看護、治療的な関わり、セルフケアを基本にした看護について学習する。さらに地域での生活支援、社会復帰支援に必要な資源等について理解する。演習では、精神障害をもつ事例を提示し、その援助の必要性や留意点等を体験的に理解し、援助を実践する能力や態度を養うことを目的とする。 (オムニバス方式／全23回) 講義14回 (⑤　五十嵐愛子／9回)精神看護の基本概念、対象の理解、精神科の治療と看護を教授する。具体的には、精神看護の対象とその家族、精神科治療に伴う患者の看護、治療的な関わり、セルフケアを基本にした看護について学習する。さらに地域での生活支援、社会復帰支援に必要な資源等について理解する。 (⑥　本田優子／5回)精神科の治療と看護の内、思春期・青年期にある人の障害と看護について、精神症状の観察とアセスメント、治療的コミュニケーションの方法、セルフケアのアセスメントの視点と方法について講義する。また、発達障害、不登校、摂食障害、不安障害、ストレス関連障害、人格障害について、家族支援も含めてた具体的な援助のあり方を講義する。さらに、精神科における患者の権利擁護と倫理の重要性についても触れる。 演習9回 (⑤　五十嵐愛子、⑥　本田優子／共同指導)精神障害をもつ人の事例を提示し、援助の必要性や留意点等を体験的に学ぶ演習を行う。具体的な内容としては、精神症状を持つ人とのかかわりの基本、看護場面の再構成法、生活技能訓練の実際と振り返り、精神科の治療と看護(作業療法、レクリエーション療法)、精神障害者の社会参加とノーマライゼーションの探索・発表、事例展開などの演習を行う。	オムニバス方式 講義28時間 演習18時間 共同
			精神看護学実習	(概論) 精神看護学実習では、こころの健康問題や精神障害を抱える人々の理解を深め、その人らしく生き生きと自立した生活が送れるように看護師として必要な援助ができる能力を養う。主に、病院で加療中の精神障害者を対象とし、対象のアセスメントから社会復帰支援を網羅した看護計画を立案して看護援助を実践する。この実習を通じ、精神看護における看護師の役割と精神障害者に対する保健医療福祉の連携と協働について理解を深める。	臨地実習 90時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅱ	地域在宅看護学科目	地域在宅看護学概論	(概要)地域看護の基本理念と特徴、地域における看護活動の概要、および在宅ケアの理念と成立要件、生命を守り生活の質を向上させるための訪問看護の活動について学ばせる。在宅療養者と家族を健康問題だけでなく多様な価値観・生活背景をもつ人として理解すること、その人らしい人生を送れるよう支援すること等、訪問看護で求められる基本姿勢をまず教授する。訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所などの在宅ケアにかかわる機関、在宅医療福祉サービス、在宅ケアチームと連携のあり方、退院調整・継続看護、在宅ケアにおける法的・倫理的問題について学習させる。 (オムニバス方式／全15回) (⑮ 藤田美江／11回)地域看護の基本理念と特徴、在宅看護ケアの理念、家庭訪問・訪問看護、訪問看護における家族看護、在宅ケアに関わる期間・ケアチーム、在宅への継続看護、在宅看護における法的・倫理的問題を取り上げる。 (⑭ 奥山みき子／2回)在宅ケアにかかわる機関の中で、看護職が多く所属するのが訪問看護ステーションである。訪問看護ステーションの開設主体、従事者、人員基準、訪問看護サービスの内容、訪問看護の根拠となる法律・制度について教授する。また、在宅療養支援診療所、ヘルパーステーション、居宅介護事業所など、在宅ケアを支える機関やサービス、職種を紹介し、地域における医療連携のあり方を考える。 (㉕ 今松友紀／2回)地域全体の健康レベルを向上させるために行われる公衆衛生看護活動の意義と方策を、ハイリスクアプローチやポピュレーションアプローチとヘルスプロモーションの方略を踏まえて教授する。特に小集団を対象とした健康教育を取り上げ、計画立案、実施、評価の一連のプロセスについて学習する。	オムニバス方式
			地域在宅看護援助論Ⅰ	(概要)地域在宅看護学概論で学習した知識を基盤とし、具体的な援助に関する知識・技術を学ばせる。 (オムニバス方式/全15回) 講義15回 (⑮ 藤田美江／7回)訪問看護における看護過程の展開、日常生活援助と医学的管理、状態別看護(在宅酸素療法者、がん、神経難病)、在宅ケアにおける緊急時・災害時の対応を教授する。 (⑭ 奥山みき子／4回)訪問看護における看護過程の展開、日常生活援助と医学的管理、状態別看護(脳血管疾患、認知症)、在宅ケアにおける看護方法及び用具の工夫、介護福祉機器の導入について教授する。 (㉕ 今松友紀／4回)健康増進を目的とした健康相談・保健指導について、保健行動の各種概念を踏まえ、それに必要な看護職の支援方法・支援技術を学生が習得できるように教授する。また、小集団への健康教育やグループ支援の方法について、グループダイナミクスやグループの発展過程も踏まえて教授する。	オムニバス方式
			地域在宅看護援助論Ⅱ	(概要)地域在宅看護学概論及び地域在宅援助論Ⅰで学んだ知識を基盤とし、具体的な援助に関する技術を学ばせる。 演習8回 (⑭ 奥山みき子、⑮ 藤田美江、㉕ 今松友紀／共同指導)訪問看護で求められる面接技術(マナー含む)、アセスメント方法、援助の基本(日常生活の援助、福祉機器)および小集団を対象とした健康教育の4つの課題について、技術習得に焦点をあてて学ばせる。	共同
			地域在宅看護学実習	(概要) 訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所等の実習においては、在宅療養者と家族への看護実践を通して、在宅看護に必要な基礎的能力を修得させる。さまざまな健康問題を有する療養者を家族や生活環境も含めてアセスメントする能力、価値観・生活様式・生活史等を尊重して生活を支える看護職の基本姿勢、保健医療福祉サービスのひとつとしての看護の役割とケアマネジメントについて理解を深める。	臨地実習 90時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅲ	国際看護科目	国際保健学	（概要） 国際保健の概念と歴史、世界の保健・医療の現状と課題について概説し、母子保健、新興感染症、環境衛生、人口増加、ＨＩＶ/エイズに関する問題の要因と影響を解説する。また、国際保健と密接に関連するアジアとアフリカの貧困、内戦、文化、社会構造に関し論ずると共に、2国間・多国間協力、ＮＧＯなどの活動形態、活動内容と日本の国際保健協力を紹介する。東アジアやアフリカにおける国際保健活動の具体的事例を活用し、活動の立案作成、実施、モニタリング評価手法と活動効果に関する講義を行う。	
			国際看護学	（概要）国際化が進むなかで、国際看護活動の意義を理解する。また、諸外国の看護に関連する現象を、その国の政治経済や文化、価値観を踏まえて理解する力を養う。国際看護の課題や将来展望について考えるための基礎を学び、グローバルマインドの涵養をはかる。 （オムニバス方式／全15回） 講義15回 （⑧ 秋元とし子／7回） 1.なぜ国際看護学を学ぶのか 国際的な視野をもつことの意味 2.共存に向けた国際協力 ①人間の安全保障 ②プライマリー・ヘルスケアとヘルスプロモーション 3.異文化理解と国際看護活動 ①文化的存在としての人間の理解 ②文化を考慮した看護 4. 国際看護活動に求められる能力 5. 国際看護活動の実際 ①北欧における看護の実際 ②米国における看護の実際など （⑪ 田中博子／8回） 1. 国際看護とは 国際看護の概念、目的 2. 国際看護を展開する機関・組織 各機関（国際機関、政府機関、NGO）と看護活動の特徴 3. 国際看護活動の方法論 ①国際看護活動の展開プロセス、アセスメントの視点 ②発展途上国で必要とされる看護の知識・技術 4. 国際看護活動の実際―アジア太平洋における国際看護活動の実際 5. 国際看護における課題 看護師の国家間移動に関する世界の現状 日本で就労する看護師に関する課題	オムニバ方式 講義30時間
			国際看護特講a	（概要） 世界の保健・医療の現状を俯瞰し、地域による健康問題とその背景について解説する。ＷＨＯやＮＧＯの活動の歴史を概説し、その活動の影響力について学ぶ。世界的な視野で保健・医療をとらえる時に、最新の保健衛生統計をどのように活用するかも学ぶ。	
			国際看護特講b	（概要） 北欧と北米の医療・看護・福祉について、人々の生活に重ねて実態を解説する。また、デンマークとカナダの、現在に至る歴史と保健政策の変遷について学び、そこで看護が果たしてきた役割・機能から、世界の看護の理解につなげていく。	
			国際看護特講c	（概要） アジア太平洋各国の看護の現状と問題について概説し、この地域に求められている看護について解説する。フィリピンにおける事例を通し、開発途上国が抱える健康問題と国際協力の在り方について講義する。また、フィリピンの看護師の活動と日本の看護師の活動の比較等を示しながら、文化や制度との関連を理解できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅲ	国際看護科目	国際看護研修	（概要）国際看護研修は、本学の交流協定校において海外研修を実施し、英語コミュニケーション力の向上と保健・看護の専門用語の修得、医療と健康に関するグローバルな視野を育むことを目的とする。研修内容は、午前中はインテンシブな英語研修を行い、午後は医療施設の視察、保健行政、医療従事者との懇談、フィールドワークを実施する。医療施設は、第3次医療機関となる私立・公立病院から診療所、ヘルスポスト等を訪問し、多様なニーズとそれに対応する医療サービスに関し説明する。フィールドワークは、感染症、母子保健、栄養などの個別トピックについて調査する機会を提供する。	
		看護の統合と発展科目	キャリアプランニング基礎	（概要）初年次教育として、大学での学習活動に必要となる学習スキル、図書館の利用方法、学習ポートフォリオの作成・活用方法、演習科目の学習方法などを指導し、学習活動が主体的かつ円滑に進むようにする。文章表現法、コンピュータ・リテラシーの知識を活用し、学生が設定した課題をテーマに探求型のグループワークを行い報告書を作成する。これらの過程を通し、看護師を目指す学生の入学動機をあらためて確認し、一層興味関心を高め、看護への志向が維持されていくようにする。また、学生の看護師に対するイメージを修正拡大し、将来の目標やゴールを考えるために必要な情報をグローバルな観点から提供し、キャリアをどのように構築していくか具体的に指導し、それぞれの学生が「目指す看護師像」を探求するスタートとする。 （オムニバス方式／全15回） 講義10回 （①　中泉明彦／1回）大学で学ぶということ 入学したばかりの学生が、「大学で学ぶということ」の意義を認識し、大学生としての４年間の学びの動機づけとする。 （②　村島さい子／9回）キャリアプランニングの考え方・方法 ①キャリアプランニングの考え方・方法を示し、「自己理解」「目指す看護師像」を探求するスタートとする。 ②図書館の利用方法や授業内容に応じた予習復習の方法、学習ポートフォリオの作成と活用等について指導する。 ③看護への招待として、専門職のモデルと直接交流する機会を提供し、自分なりのキャリア構築のイメージが描けるようにする。 演習5回 (以下の教員が3年ごとに担当／共同指導) 初年度:②　村島さい子、④　長沼貴美、⑨　五味千帆、⑮　藤田美江、⑭　奥山みき子、⑰　青木涼子、⑲　大釜信政、㉔　田中利枝 次年度:②　村島さい子、③　大釜徳政、⑤　五十嵐愛子、⑧　秋元とし子、⑩　添田百合子、⑫　東森由香、⑱　能見清子、⑳　佐藤美香 次々年度:②　村島さい子、⑥　本田優子、⑪　田中博子、⑬　志村千鶴子、⑯　林真理子、㉒　松平裕佳、㉓　片岡優華、㉕　今松友紀 演習に際しては、学生を10名前後のグループに分けて指導する。学生グループが自由に課題設定し、履修中の文章表現法やコンピュータ･リテラシーの学習内容を活用し、課題に取り組む。最終回にプレゼンテーションしクラスでの学習の共有化を図る。この学習を通し看護を生涯学習していくための基本となる学習スキルの獲得を目指す。課題学習では、人間関係とコミュニケーションの授業の学びを活かし、教員と学生、学生同士の共同学習を展開するようにする。	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間 共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅲ	看護の統合と発展科目	看護管理論	（概要）保健・医療・福祉の現状を俯瞰し、看護が担うべき役割や責務について概説する。看護実践と看護管理は相互に依存しあう関係にあることから、実践をより良いものへと変革していくための看護管理の役割や機能について教授し、管理行動の基盤となるスキルについて演習を行い基本事項の理解と習得を図る。また、看護師や看護実践がどのような法律と関連しているかを示し法令遵守の意義を認識する。 講義13回 （②　村島さい子／13回） 日本の保健医療制度の現状とその特徴、病院組織の特徴等について概説し、看護に関連した法律・制度・倫理についても、既習の実習体験を想起させ、その目的や意義について理解できるようにする。また、看護サービスの提供と質保証の取組みの現状について、実例を通し解説する。看護活動の中で発揮されるリーダーシップについては、看護の場面で幅広く活用できるSLモデルを紹介し、意思決定や動機づけへの活用につなげる。また、看護実践と安全については、薬物とME機器の安全に焦点をあてて、講義者の臨床でのヒヤリハット分析や事故対応例を紹介し、医療安全への意識を高める。 演習2回 （②　村島さい子、⑱　能見清子／共同指導） 医療安全における、状況の判断や確認方法について、多重課題を含む事例を用いた演習を行う。ME機器のトラブルとその対処の原則的な行為を、演習をとおし習得する。	講義26時間 演習4時間 共同
			感染看護論	（概要）診断治療学Ⅱで学んだ感染のメカニズムや感染症の症状・治療の知識をもとに、病院や施設における感染予防対策に必要な概念と日常の看護ケア・処置における適切な感染予防対策の実際を学ぶ。さらに、感染防止における医療従事者の安全と配慮、病院内サーベイランスを含めた感染管理の評価方法についても学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） （105　伊藤美和子／4回）感染管理の概念、医療従事者の安全と配慮、病院内サーベイランス。 （106　武藤久美子／4回）病院や施設における感染予防対策の実際、日常ケア・処置時の感染防止。	オムニバス方式
			看護学研究方法論	(概要)この授業は、看護の理論および方法の開発に寄与する力をつける導入とするために、看護の研究的な視点を理解し、研究テーマに応じた適切な研究方法を知り、研究プロセスについて理解することを目的とする。 (オムニバス方式／全8回) (⑥ 本田優子／2回)看護研究の意義や目的、倫理的配慮について講義する。また、研究論文など文献のクリティーク、文献の活用方法、文献検索の方法について講義する。 (③ 大釜徳政／4回)研究目的に応じた研究方法について解説する。 ①質的アプローチ ②量的アプローチ (④ 長沼貴美／2回)臨床看護研究の実際を提示し、研究の視点や倫理的視点を探る。また、各自の関心あるテーマについて相互に学び合い、考察を深める機会とし、この関心を4年次の看護研究に活かしていく。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅲ	看護の統合と発展科目	災害看護論	（概論）災害という特殊な状況を理解し、看護師として被災者救護活動に必要な知識と援助方法について基礎的事項を習得する。また授業を通じ、日常生活においても防災意識の高揚や災害ボランティアへの関心を高める。 1. 災害概論 2. 災害被害と援助のニーズ 3. 災害救護活動（DIC） 4. 災害救護の法的根拠 5. 国・自治体の活動と医療機関 6. 災害看護の役割 7. 災害看護の実際 （1）自施設患者の避難 （2）傷病者受け入れ （3）医療救護チーム活動（シミュレーション） （4）復興期・災害間期 （5）こころのケア 8. トリアージ 9. まとめ	
			卒業研究演習	（概要）この授業は、看護学研究方法論で学んだ研究方法を、演習形式で発表・討議を重ねながら展開し、各人が卒業研究を実施し論文を作成するための研究計画を立案することが目的である。 学生は3年時までの授業や実習の経験から自分が研究したいと思う専門分野を選択する。専門分野ごとに、一人の教員が４～５名の学生を担当するように配分する。 演習では、先行研究の検討を重ねながら、各人が研究テーマを絞り込んでいく。発表と討議によって、最終的に研究テーマを設定し、適切な研究対象や調査方法、分析方法など研究方法を決定し、研究計画を立案する。	
			看護実践統合実習	（概要）既習の学びを統合し、看護チームの一員として実務に即した主体的な看護活動を行う。多様な看護場面の経験を通し、クリティカルセンスを鍛え、科学的根拠のある実践を行う看護専門職としての基礎的能力を育成する。さらに、看護への志向をさらに高め、看護を探求し、生涯看護を学び続ける意思を育む実習とする。	臨地実習 90時間
			卒業論文	（概要）この授業は、各人の研究テーマに沿った研究計画を実行し、研究データの収集からまとめ・発表までのプロセスを体験的に理解し、研究の力量を身につけることを目的とする。実際には、各人のテーマにそった研究方法に基づき、研究データの収集・整理・分析を行い、結論を出して、論文としてまとめる。次いで、研究論文の発表会を行い、相互の質疑応答を通して、研究テーマに迫る学びをする。	
			医療連携論	(概要)看護の対象者のケアを受ける場の拡大に伴い、病院施設の内外における連携がますます重要となり、対象者が必要としているケアが継続していくようコーディネートする役割が看護に期待されるようになった。保健･医療･福祉は多様な専門職の協働で行われる活動である。それぞれの職種の役割･機能について、看護の役割を対比して考えることで、看護の専門性に対する考えをさらに深めていく。施設内での連携、施設と地域･家庭への連携について、基礎となる理論や協働の在り方を学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (⑫　東森由香／4回)施設内での多職種の連携における看護職の役割機能について概説する。医療職、介護職、福祉職等の、看護と協働する職種の役割･機能･法的根拠などを示す。また、具体例として医療施設や介護施設における退院調整チームの活動を紹介する。この授業を通し、医療連携の課題と展望が考えられるようにする。 (⑭　奥山みき子／4回)医療と在宅をつなぐケアマネジメントの実際について概説する。地域における限られた医療資源を有効に活用する方法や地域医療の連携体制の考え方を示す。地域と医療機関等が連携･協働し医療連携体制を推進して行くにあたり、保健所、市町村が医療機関等とどのような連携をしているか実例を紹介する。これらの学習を通し、現状の把握と課題を認識する。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅲ	看護の統合と発展科目	クリティカルケア論	（概要） この科目に於いては、クリティカルケアを要する患者とその家族に対する看護に主眼をおく。救急看護や集中治療下での概念を理解したうえで、生命の危機状態にある患者やその家族の特徴を学ぶ。また、急性期の代表的な疾患の主要症状・検査・治療・処置を理解する。さらに、緊急度や重症度を基軸にして、生命の危機状況にある患者の病態を適切に評価し、処置や治療に迅速に対応できる看護能力の基本を養う。加えて、患者の生命維持、苦痛の緩和、回復に向けての看護や家族の心理的危機状態にも対応する必要性について学ぶ。	講義22時間 演習8時間
			がん看護論	(概要)がんおよび治療による全人的苦痛を抱える患者とその家族に対して、保健医療福祉システムとの連携を視野に入れ、対象の生活の安寧とその質を高めるための看護の基礎的知識・技術を学ぶ。具体的には、がん看護に関連する概念の理解、がん看護にともなう倫理的問題、放射線療法、化学療法を受ける者に対する看護について学習する。 (オムニバス方式／全8回) (① 中泉明彦／3回)がん治療の最前線に存在する、諸問題を取り上げ、看護師としてがん患者にどう接するべきかを考える契機とする。具体的には、患者並びに家族に対する告知・インフォームドコンセントの抱える問題、早期検診のメリットとリスクについて取り上げる。 (③ 大釜徳政／5回)がん看護に関連する概念の理解、倫理的問題、放射線療法、化学療法を受ける者に対する看護について。	オムニバス方式
			リエゾン精神看護	（概要） リエゾン精神看護の歴史と理念を学習し、リエゾン精神看護師が、精神看護の知識・技術を用いて、身体疾患から派生する精神の健康問題をもつ患者や一般の看護師の対応困難事例への対応、さらに、看護師・医療従事者のメンタルヘルスに対処し、良質な看護の提供を目標としていることを理解する。さらに、患者と家族の直接ケア、コンサルテーション、医療スタッフ間の調整・コーディネーション、看護師の教育、看護研究、倫理調整、看護師のメンタルヘルスを支援する活動について学び、リエゾン精神看護の発展を考察できる素地を養う。	
			家族看護論	（概要）保健・医療・福祉における現代的課題である「家族と看護」をテーマに、現代の家族システムや、さまざまな臨床現場で求められる家族の役割（適応）について、より広い視野から総合的に学び、家族看護の立場から医療者の援助方法について理解を深める。 （オムニバス方式／全８回） （① 中泉明彦／1回） 少子高齢、核家族化が進む現代社会において、システムとして家族を理解し、医療における告知と家族、家族が望む医療について学ぶ。 （④ 長沼貴美／2回） 家族看護論の概要、及び子どもの病気と家族に関する具体的な事例から育児期にある家族の問題について具体的に学ぶ。 （⑤ 五十嵐愛子／2回） 精神に障害を持つ人とその家族が、家庭、地域社会での日常生活に、また職場や学校での活動の際に、どのような問題に直面しがちか理解し、家族への専門的な支援について学ぶ。 （⑭ 奥山みき子／2回） 地域社会の基本単位である家族のなかでも、老ー老介護の家族に対し、家族と地域を結ぶ様々な取り組みから、高齢者の豊かなQOLを支える家族支援のありかたについて学ぶ。 （⑮ 藤田美江／1回） 家庭で療養する難病患者とその家族が抱える、心理的・身体的・社会的な課題をとおし、家族の状況の判断や健康問題と家族への支援について学ぶ。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護の専門分野Ⅲ	看護の統合と発展科目	生活習慣病予防と看護	(概要)医療・科学技術の進歩や人々の生活習慣の変化などにより、疾病構造が変化している。高血圧、肥満、糖尿病、脂質異常症、心臓病、脳卒中、がん、歯周病などは、生活習慣が大きく影響して発症・進行する。これらの生活習慣病といわれるものは、日常の生活習慣を改善することによって、疾病の発症・進行を予防する事が可能である。本科目では、講義と演習に拠って生活習慣病についての様ざまな知見を学び、これを予防するための看護職の役割を考察し、演習で看護の実際を学ぶ。 (オムニバス方式／8回) 講義2回 (⑩　添田百合子／1回) 生活習慣病を持つ人の理解と看護師の役割について、病院での実践を紹介し、具体的に講義する。 (㉕　今松友紀／1回) 生活習慣病予防におけるヘルスプロモーション、特に小集団を対象とした健康教育の一連のプロセスについて解説する。あわせて、実際の健康教室の運営の方法や注意事項についても教授する。 演習6回 (⑩　添田百合子、㉕　今松友紀／共同指導)学生が自分の関心のある生活習慣病について教材開発を行い、それを用いた集団教育プログラムを立案・実施・評価する。学生を対象とした模擬患者会や地域での健康教室等で生活習慣病予防の健康教育を行う機会を持つ。	オムニバス方式 講義4時間 演習12時間 共同
			看護実践と倫理的課題	(概要)看護師が臨床現場で直面する倫理的問題について、4年間の実習体験を手掛かりに、学生同士のディスカッションを通し掘り下げていく。一方で、看護師としての権利が侵害されている場面も取り上げ、倫理上の問題への介入の可能性について探求する。看護倫理に支えられた日々の看護を実践していくための意思を育む内容とする。 (オムニバス方式／全8回) 講義3回 (⑨　五味千帆／1回)4年間の実習体験の中で直面した諸問題に潜む課題を考察し、その根底にある倫理的課題について探求する。 (⑧　秋元とし子／1回)看護師としての職業倫理に支えられた看護実践と倫理的課題との葛藤について考察していく。 (⑩　添田百合子／1回)専門看護師としての経験の中から、倫理的問題にどのように対処してきたかを教授する。 演習5回 (⑧　秋元とし子、⑨　五味千帆、⑩　添田百合子／共同指導)倫理的課題を内包している事例を素材とし、ディスカッションにより核心に迫る。	オムニバス方式 講義6時間 演習10時間 共同
			看護専門職論	(概要)この科目では、「看護とは何か」「専門職としての看護師には何が必要か」「看護の専門性の発展とその価値」について学生自らが探求する姿勢を養うことを目的とする。この方法としては、小グループによる演習を通して、関心あるテーマの焦点化と問題解決を試み、その成果の発表を通して共有学習の場とする。 (オムニバス方式／全8回) 講義4回 (②　村島さい子／1回)産業としての医療-職業としての看護、学術としての看護という2面を持つ看護学について考える機会を提供する。 (⑥　本田優子／2回)看護実践の教育的側面について考察するとともに、看護師自身の専門性を高めるための生涯学習について言及する。 (⑲　大釜信政／1回)日本の看護教育制度、諸外国の看護教育制度及び専門職としての看護職の発展経緯と最近の動向について紹介する。 演習4回 (②　村島さい子、⑥　本田優子、⑲　大釜信政／共同指導) 看護の専門性の発展とその価値についてディスカッションを通し探求する。専門職のモデルとして、ゲストスピーカーを交え、具体的な討議になるようにする。現状における課題と将来展望を明らかにし、成果を提言としてまとめる。	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間 共同